

# 2022年度第1四半期決算説明資料

---

Financial Results for First Quarter FY2022  
(for the year ending March 31, 2023)

2022年8月12日

川崎重工業株式会社



 **Kawasaki**  
Powering your potential

# 0 目 次

1

## 2022年度第1四半期決算実績

サマリー	3
セグメント別	4
損益計算書	5
事業損益増減要因	7
財政状態計算書	9
キャッシュ・フロー計算書	11

2

## 2022年度業績予想

サマリー	13
セグメント別	14

### ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみで依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。なお、当社は2022年度第1四半期よりIFRS（国際財務報告基準）を適用しており、比較年度である2021年度の財務情報もIFRSを適用していますが、右記の財務情報については監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります。

3

## セグメント別詳細情報

航空宇宙システム	15
車両	19
エネルギーソリューション&マリン	23
精密機械・ロボット	27
モーターサイクル&エンジン	31

4

## 株主還元、その他

株主還元	35
プロジェクトトピックス	36
参考資料	40

### — 当社試算値 —

2021年度第2四半期（全社情報・セグメント情報）
2021年度第3四半期（全社情報・セグメント情報）
2021年度通期（セグメント情報）

# 1 2022年度1Q決算実績 - サマリー

- ✓ 為替は円安基調で推移したものの、事業利益は前年同期比で減益
- ✓ 税引前利益では、為替差益の計上により事業利益から改善

(単位：億円)

	'21年度1Q	'22年度1Q	前年同期比
受注高	3,042	<b>4,120</b>	+ 1,078
売上収益	3,555	<b>3,503</b>	▲ 52
事業利益 <sup>※1</sup>	185	<b>45</b>	▲ 139
	[利益率] [5.2%]	[1.3%]	[▲ 3.9pt]
税引前四半期利益	170	<b>106</b>	▲ 64
	[利益率] [4.7%]	[3.0%]	[▲ 1.7pt]
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	114	<b>54</b>	▲ 60
	[利益率] [3.2%]	[1.5%]	[▲ 1.6pt]
売上加重平均レート(USD)	110.71	<b>124.76</b>	+ 14.05
損益影響外貨量(億USD) <sup>※2</sup>	4.2	<b>4.1</b>	▲ 0.1

※1 IFRS適用に伴う損益計算書上の主要な変化点（日本会計基準における営業利益および経常利益との差異等）はP.42を参照

※2 川崎重工業、川崎車両、カワサキモータースのドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件のドル建売上を含む）した外貨量であり、為替レートが1円変動することによる事業利益への概算影響額。当該数値のセグメント別内訳はP.42を参照

【参考】日本会計基準での'21年度1Q実績

(単位：億円)

	'21年度1Q
受注高	3,042
売上高	3,556
営業利益 <sup>※1</sup>	151
	[利益率] [4.2%]
経常利益 <sup>※1</sup>	131
	[利益率] [3.7%]
税金等調整前 四半期純利益	146
	[利益率] [4.1%]
親会社株式に帰属する 四半期純利益	98
	[利益率] [2.7%]

# 1 2022年度1Q決算実績 - セグメント別

✓ 航空宇宙システムはボーイング向けの減少により減収・減益 ①

✓ 精密機械・ロボットは中国ロックダウンの影響を受け減収・減益 ②

(単位：億円)

	受注高			売上収益			事業損益		
	'21年度1Q	'22年度1Q	増減	'21年度1Q	'22年度1Q	増減	'21年度1Q	'22年度1Q	増減
航空宇宙システム	374	<b>604</b>	+ 230	700	<b>634</b>	▲ 66	▲ 42	<b>▲ 89</b>	▲ 46
車両	93	<b>117</b>	+ 23	287	<b>264</b>	▲ 23	▲ 2	<b>▲ 1</b>	+ 0
IT・デジタルソリューション&マリン	609	<b>1,245</b>	+ 636	703	<b>635</b>	▲ 68	4	<b>▲ 0</b>	▲ 4
精密機械・ロボット	651	<b>679</b>	+ 28	576	<b>526</b>	▲ 50	46	<b>14</b>	▲ 31
モーターサイクル&エンジン	1,135	<b>1,260</b>	+ 125	1,134	<b>1,260</b>	+ 125	149	<b>128</b>	▲ 20
その他	178	<b>213</b>	+ 34	152	<b>183</b>	+ 30	9	<b>13</b>	+ 3
調整額※	-	-	-	-	-	-	20	<b>▲ 20</b>	▲ 40
合計	3,042	<b>4,120</b>	+ 1,078	3,555	<b>3,503</b>	▲ 52	185	<b>45</b>	▲ 139

※ 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

# 1 2022年度1Q決算実績 – 損益計算書

(単位：億円)

	'21年度1Q	百分率	'22年度1Q	百分率	増減
売上収益	3,555	100.0	<b>3,503</b>	100.0	▲ 52
売上原価	2,912	81.9	<b>2,929</b>	83.6	① + 17
売上総利益	643	18.1	<b>573</b>	16.4	▲ 69
販売費および一般管理費	470	13.2	<b>535</b>	15.3	② + 64
うち 給料および手当	139		<b>156</b>		+ 16
研究開発費	87		<b>107</b>		+ 20
その他	244		<b>271</b>		+ 27
持分法による投資損益	▲ 10		<b>6</b>		③ + 16
その他の収益および費用(▲は損)	23		<b>1</b>		▲ 21
うち 固定資産売却益	④ 16		<b>4</b>		▲ 12
その他	6		<b>▲ 2</b>		▲ 9
事業利益	185	5.2	<b>45</b>	1.3	▲ 139

## 要因説明

- ① 原材料価格の上昇等によりモーターサイクル&エンジン等で増加
- ② DXに係る費用や水素事業などの新規事業関係費用の増加等
- ③ 主として船舶中国合併会社で業績が改善
- ④ 土地の売却

(注) IFRS適用に伴う損益計算書上の主要な変化点はP.42に記載しています

# 1 2022年度1Q決算実績 – 損益計算書

(単位：億円)

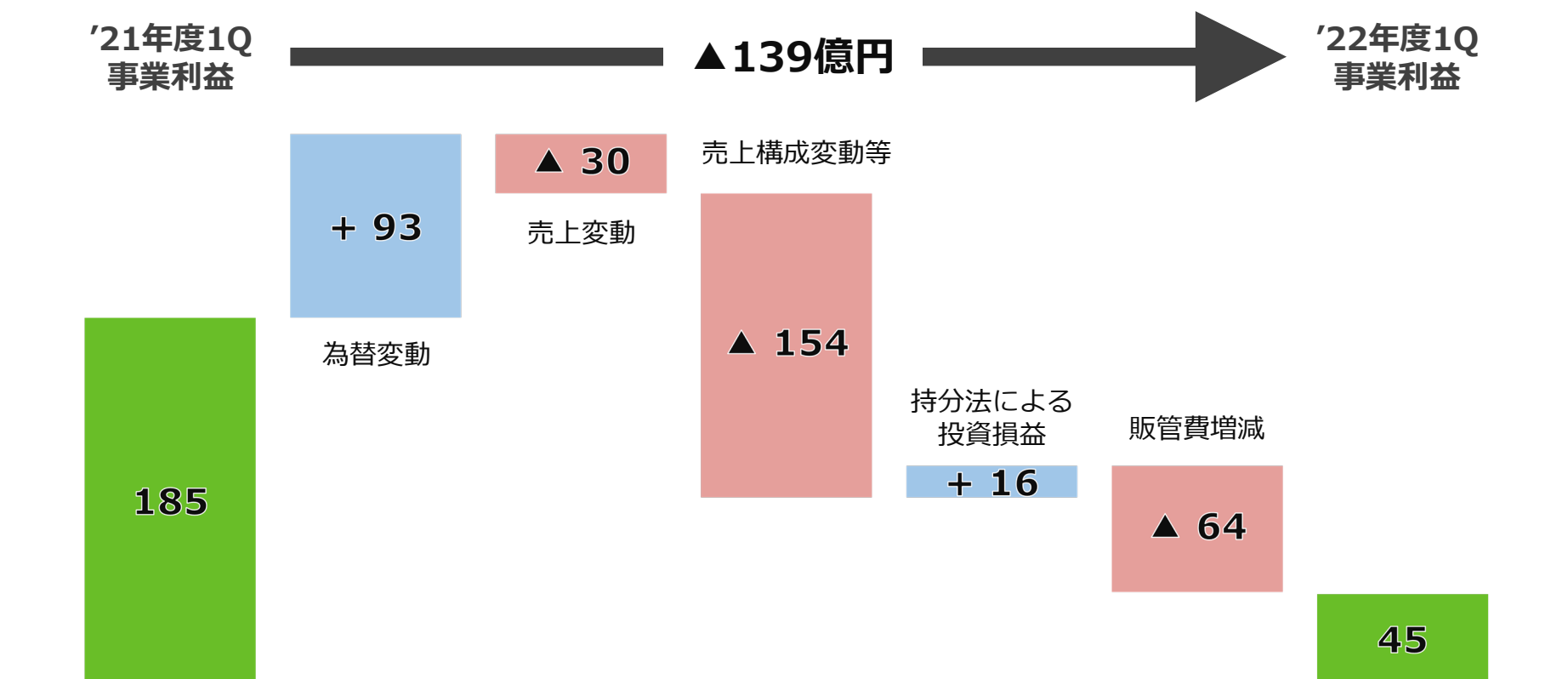
	'21年度1Q	百分率	'22年度1Q	百分率	増減
金融収益および費用(▲は損)	▲ 14		60		+ 75
うち 金融収支(受取配当金含む)	▲ 5		▲ 5		+ 0
為替差損益	▲ 7		⑤ 70		+ 77
その他	▲ 2		▲ 5		▲ 2
税引前四半期利益	170	4.8	106	3.0	▲ 64
法人所得税費用	51		48		▲ 3
非支配持分に帰属する四半期利益	4		3		▲ 1
親会社の所有者に帰属する四半期利益	114	3.2	54	1.6	▲ 60

## 要因説明

- ⑤ USD/JPYのレート差  
 '21年度期末日レート  
 122.41円  
 '22年度1Q末日レート  
 136.69円

(注) IFRS適用に伴う損益計算書上の主要な変化点はP.42に記載しています

- ✓ 航空宇宙システムでは'21年度4Qにボーイング向け売上が集中したため、売上構成変動等で悪化
- ✓ MC&Eでは原材料価格の上昇や物流費の高騰が利益率を押し下げ



(単位：億円)

	'21年度1Q 事業損益	増減要因					増減計	'22年度1Q 事業損益
		為替変動※ (粗利影響)	売上変動※	売上構成 変動等※	持分法による 投資損益	販管費 (▲は増加)		
航空宇宙システム	▲ 42	15	▲ 2	▲ 57		▲ 2	▲ 46	▲ 89
車両	▲ 2	2	▲ 2	1	0	▲ 0	0	▲ 1
エネルギーソリューション&マリ	4	1	▲ 11	▲ 12	17	1	▲ 4	▲ 0
精密機械・ロボット	46	15	▲ 13	▲ 21	▲ 0	▲ 12	▲ 31	14
モーターサイクル&エンジン	149	59	▲ 8	▲ 57	0	▲ 14	▲ 20	128
その他	9	1	6	32	▲ 0	▲ 36	3	13
調整額	20			▲ 40	0	0	▲ 40	▲ 20
合計	185	93	▲ 30	▲ 154	16	▲ 64	▲ 139	45

※ 増減要因のうち、為替変動、売上変動および売上構成変動等は、当社が一定の基準を定めて算出した概算値です。

また、それぞれの増減要因は不可分であることも多く、特に売上変動と売上構成変動等は合算した金額を確認することが望ましい場合があります。



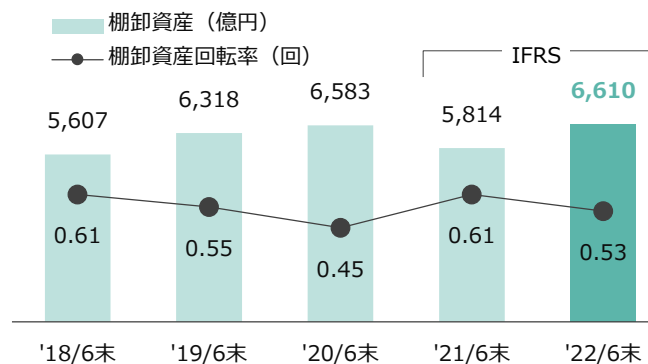
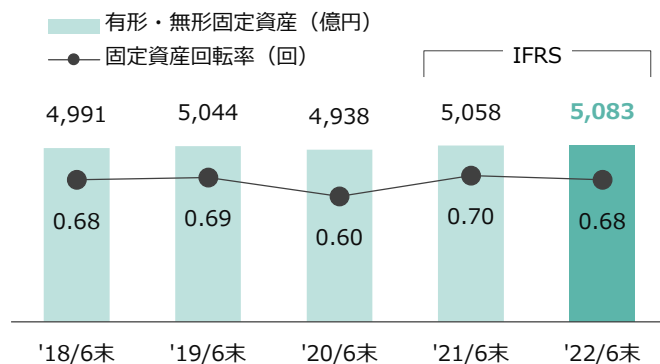
# 1 2022年度1Q決算実績 – 財政状態計算書

(単位：億円)

	'21年度末		'22年度 1Q末		増減
		百分率		百分率	
現金および現金同等物	1,085		<b>784</b>		▲ 300
売掛債権 (契約資産を含む)	4,829		<b>4,561</b>		▲ 267
棚卸資産	6,154		<b>6,610</b>		① + 455
その他	1,132		<b>1,862</b>		② + 730
流動資産 計	13,202	60.7	<b>13,820</b>	61.5	+ 618
有形・無形固定資産	5,063		<b>5,083</b>		+ 20
使用権資産	585		<b>601</b>		+ 15
繰延税金資産	1,022		<b>1,019</b>		▲ 2
その他	1,873		<b>1,944</b>		+ 71
非流動資産 計	8,544	39.3	<b>8,648</b>	38.5	+ 104
資産合計	21,746	100.0	<b>22,468</b>	100.0	+ 722

## 要因説明

- ① モーターサイクル&エンジンや車両、精密機械ロボット等で増加
- ② 航空宇宙事業における前渡金の増加や航空エンジン事業における未収入金の増加等



# 1 2022年度1Q決算実績 – 財政状態計算書

(単位：億円)

	'21年度末	百分率	'22年度 1Q末	百分率	増減
買掛債務	3,442		<b>3,270</b>		▲ 171
有利子負債	5,539		<b>6,415</b>		③ + 875
契約負債（前受金）	2,561		<b>2,702</b>		+ 140
受注工事損失引当金	96		<b>68</b>		▲ 27
退職給付に係る負債	1,070		<b>1,075</b>		+ 5
その他	3,787		<b>3,558</b>		▲ 228
負債計	16,497	75.9	<b>17,090</b>	76.1	+ 593
親会社の所有者に帰属する持分	5,054		<b>5,198</b>		+ 143
非支配持分	194		<b>180</b>		▲ 13
資本計	5,248	24.1	<b>5,378</b>	23.9	+ 129
負債および資本合計	21,746	100.0	<b>22,468</b>	100.0	+ 722

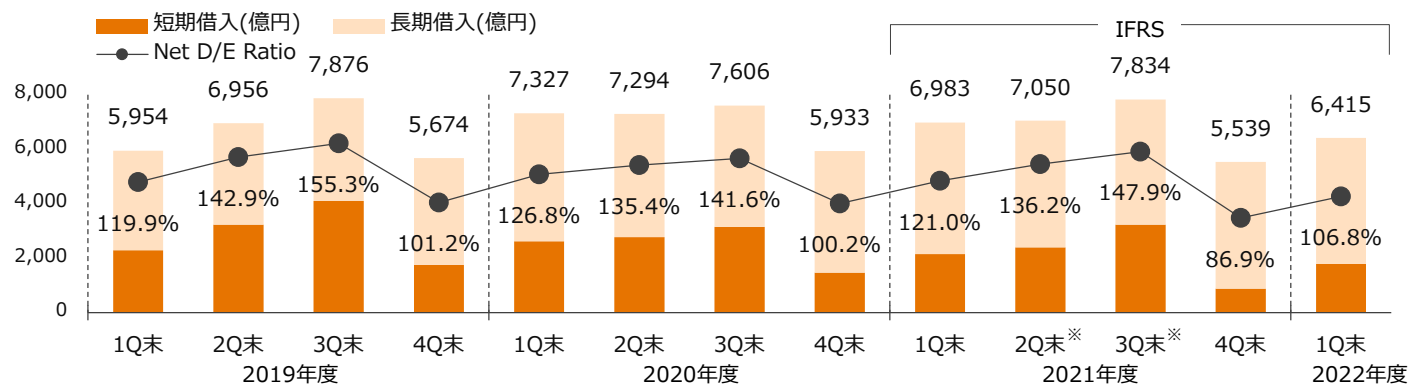
要因説明

③ 前年度末比での借入増は平常の事業サイクル

補足情報

Cash Conversion Cycle  
の推移（単位：日）

	CCC
'18年度1Q末	126
'19年度1Q末	139
'20年度1Q末	151
'21年度1Q末	141
'22年度1Q末	146



※ 本項グラフにおける2021年度2Q末および2021年度3Q末の数値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります。

(単位：億円)

	'21年度1Q	'22年度1Q	増減
税引前四半期利益	170	106	▲ 64
減価償却費	186	190	+ 3
運転資本構成項目の増減額	▲ 381	▲ 263	+ 117
うち 売上債権 <sup>※1</sup> の増減額(▲は増加)	233	432	+ 199
棚卸資産の増減額(▲は増加)	▲ 161	▲ 277	▲ 116
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲ 403	▲ 221	+ 182
前渡金の増減額(▲は増加)	▲ 54	▲ 283	▲ 229
契約負債 <sup>※2</sup> の増減額(▲は減少)	4	86	+ 81
その他	▲ 271	▲ 652	▲ 380
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 295	▲ 619	① ▲ 324
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 155	▲ 160	▲ 5
有形・無形固定資産の売却による収入	24	12	▲ 11
その他	▲ 4	▲ 91	② ▲ 87
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 135	▲ 240	▲ 104
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 431	▲ 860	▲ 428
借入金および社債の純増減額(▲は減少)	504	802	③ + 297
配当金の支払額(非支配株主への支払を除く)	▲ 0	▲ 30	▲ 30
債権流動化による収入および返済による支出	▲ 69	▲ 74	▲ 5
その他	▲ 58	▲ 68	▲ 10
財務活動によるキャッシュ・フロー	377	627	+ 250

※1,2 売上債権には契約資産を含む。契約負債の旧科目名は前受金

## 要因説明

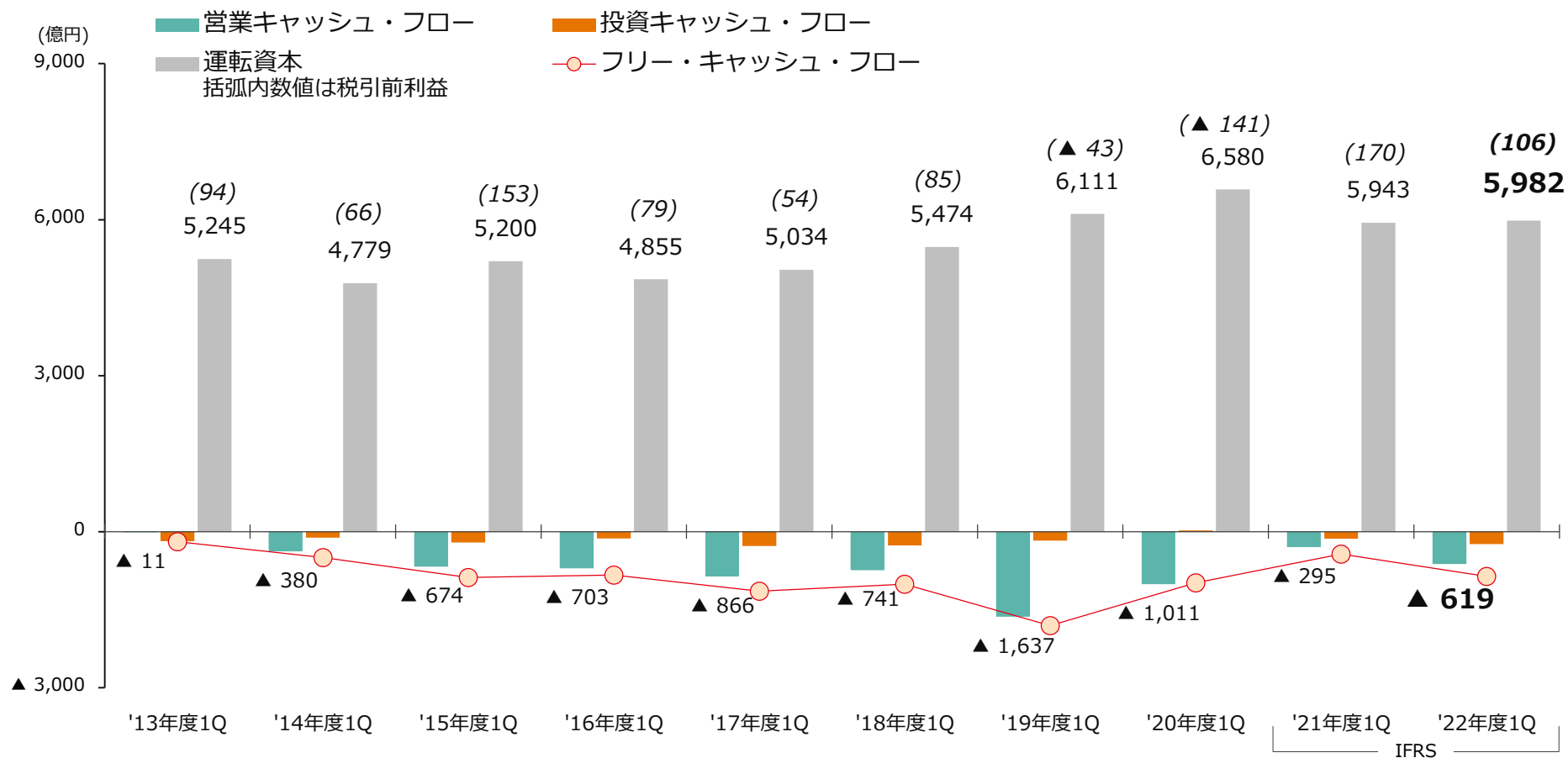
- ① '21年度1Q：  
コロナ禍からの業績回復に加え、運転資本構成項目ではプラント事業やMC&Eで債権回収が進捗
- '22年度1Q：  
運転資本構成項目ではMC&Eやプラント事業で債権回収が進捗したものの、航空宇宙事業での前渡金の増加等により資金流出
- ② 持分法適用会社への増資(約50億円)
- ③ '21年度1Q：  
1Qにおける増加額としては低水準
- '22年度1Q：  
平常の事業サイクルによる増加



'21年度から減少に転じた運転資本は前年同期と同水準を維持



営業CFは前年同期を下回るものの、'18年度1Q以前と近い水準



## 2 2022年度業績予想 - サマリー

- ✓ 各種コスト増の影響はあるものの、為替前提の変更等により利益計画を引き上げ
- ✓ 事業利益計画に対する1Q進捗率は低いものの、受注系事業は下期に利益が偏重

(単位：億円)

	'21年度 実績	'22年度予想および進捗状況					
		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	1Q実績	2-4Q予想
受注高	16,021	15,700	<b>16,000</b>	▲ 21	+ 300	<b>4,120</b>	<b>11,880</b>
売上収益	15,008	16,800	<b>16,900</b>	+ 1,892	+ 100	<b>3,503</b>	<b>13,397</b>
事業利益	303	530	<b>560</b>	+ 257	+ 30	<b>45</b>	<b>515</b>
	[利益率] [2.0%]	[3.1%]	[3.3%]	[+ 1.2pt]	[+ 0.1pt]	[1.3%]	[3.8%]
税引前当期利益	276	-	<b>520</b>	+ 244	-	<b>106</b>	<b>414</b>
	[利益率] [1.8%]	[-]	[3.0%]	[+ 1.2pt]	[-]	[3.0%]	[3.0%]
親会社の所有者に帰属する 当期利益	126	290	<b>320</b>	+ 194	+ 30	<b>54</b>	<b>266</b>
	[利益率] [0.8%]	[1.7%]	[1.9%]	[+ 1.0pt]	[+ 0.1pt]	[1.5%]	[1.9%]
税前ROIC	3.5%	3.5%	<b>5.3%</b>	1.8pt	+ 1.8pt	-	-
売上加重平均レート(USD/JPY)	111.90	120.00	-	-	-	<b>124.76</b>	<b>125.00</b>
損益影響外貨量(億USD) <sup>※</sup>	17.6	20.1	<b>21.0</b>	+ 3.4	+ 0.9	<b>4.1</b>	<b>16.9</b>

※ 川崎重工業、川崎車両、カワサキモータースのドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件のドル建売上を含む）  
した外貨量であり、ドル1円の変動による事業利益への概算影響額。当該数値のセグメント別内訳はP.42を参照

## 2 2022年度業績予想 - セグメント別

- ☑ 航空宇宙システムは下期に向かって改善、円安も追い風となり見通しを引き上げ ①
- ☑ 精密機械・ロボットは中国建機市場の減速を受け、見通しを引き下げ ②

(単位：億円)


	受注高				売上収益				事業損益			
	'21年度	'22年度予想			'21年度	'22年度予想			'21年度	'22年度予想		
	実績 <sup>※1</sup>	従来予想	修正予想	修正額	実績 <sup>※1</sup>	従来予想	修正予想	修正額	実績 <sup>※1</sup>	従来予想	修正予想	修正額
航空宇宙システム	3,833	2,800	<b>2,800</b>	-	2,982	3,500	<b>3,500</b>	-	▲ 103	25	<b>60</b>	+ 35
車両	715	800	<b>800</b>	-	1,266	1,400	<b>1,400</b>	-	22	30	<b>30</b>	-
E礼拝-ソリューション&マリ	3,435	3,400	<b>3,600</b>	+ 200	2,973	3,300	<b>3,300</b>	-	▲ 108	25	<b>25</b>	-
精密機械・ロボット	2,718	2,800	<b>2,700</b>	▲ 100	2,526	2,700	<b>2,600</b>	▲ 100	139	170	<b>145</b>	▲ 25
モーターサイクル&エンジン	4,479	5,000	<b>5,200</b>	+ 200	4,479	5,000	<b>5,200</b>	+ 200	375	430	<b>450</b>	+ 20
その他	840	900	<b>900</b>	-	780	900	<b>900</b>	-	31	40	<b>40</b>	-
調整額 <sup>※2</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	▲ 52	▲ 190	<b>▲ 190</b>	-
合計	16,021	15,700	<b>16,000</b>	+ 300	15,008	16,800	<b>16,900</b>	+ 100	303	530	<b>560</b>	+ 30


※1 各セグメントの21年度実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります


※2 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

# 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム


## 2022年度1Q実績（前年同期比）


**受注高**  防衛省向けや民間機向け航空エンジンが増加したことにより増加  
+230 億円


**売上収益**  民間機向け航空エンジンが増加したものの、ボーイング向けが減少したことにより減収  
▲66 億円

**事業利益**  民間機向け航空エンジンが改善したものの、ボーイング向けが悪化したことにより悪化  
▲46 億円

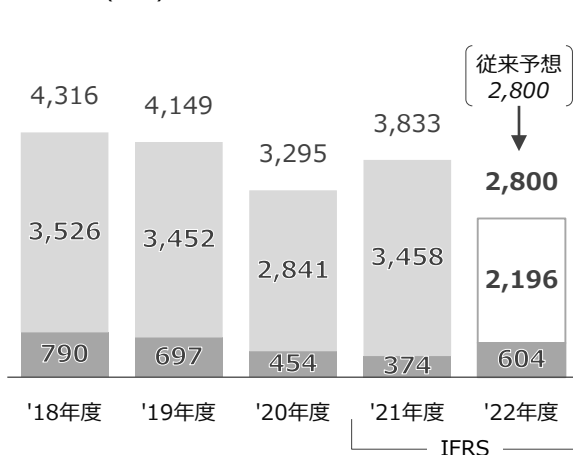
## 2022年度予想（従来予想比）

**受注高**  為替前提の変更や防衛省向けの増加はあるものの、ボーイング向けの減少により、全体としては見通しを据え置き  
±0 億円

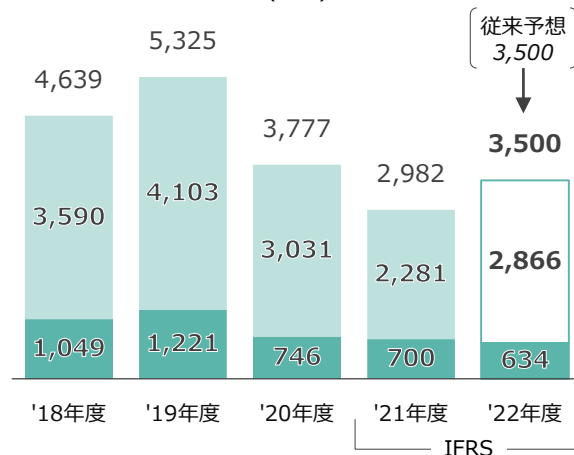
**売上収益**  為替前提の変更はあるものの、防衛省向けの減少等により、全体としては見通しを据え置き  
±0 億円

**事業利益**  為替前提の変更により、見通しを引き上げ  
+35 億円

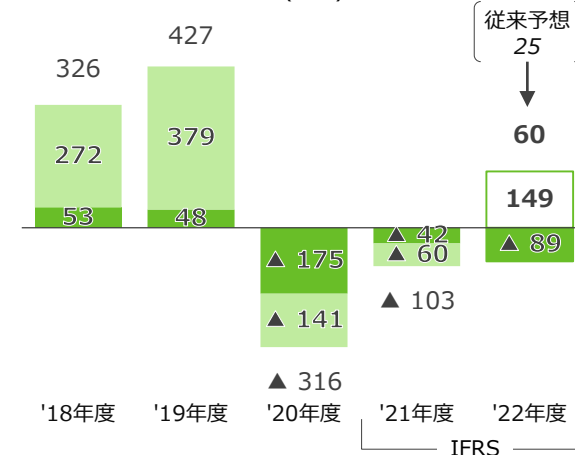
受注高 (億円)



売上高または売上収益 (億円)



営業損益または事業損益 (億円)



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します。なお、21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

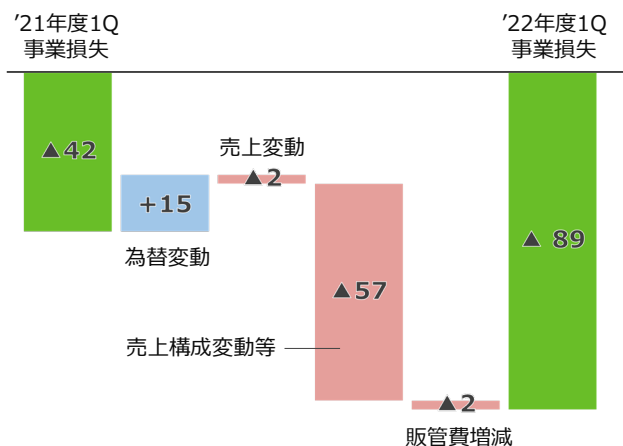
### 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

(単位：億円)

	'21年度	'22年度		'21年度	'22年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期*	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	374	<b>604</b>	+ 230	3,833	2,800	<b>2,800</b>	▲ 1,033	-	<b>2,196</b>
うち 航空宇宙	275	<b>459</b>	+ 184	3,295	2,050	<b>2,050</b>	▲ 1,245	-	<b>1,591</b>
航空エンジン	98	<b>144</b>	+ 46	538	750	<b>750</b>	+ 212	-	<b>606</b>
売上収益	700	<b>634</b>	▲ 66	2,982	3,500	<b>3,500</b>	+ 518	-	<b>2,866</b>
うち 航空宇宙	564	<b>455</b>	▲ 109	2,320	2,550	<b>2,550</b>	+ 230	-	<b>2,095</b>
航空エンジン	136	<b>179</b>	+ 43	661	950	<b>950</b>	+ 289	-	<b>771</b>
事業損益	▲ 42	<b>▲ 89</b>	▲ 46	▲ 103	25	<b>60</b>	+ 163	+ 35	<b>149</b>
	[利益率] [▲ 6.0%]	[▲ 14.0%]	[▲ 7.9pt]	[▲ 3.4%]	[0.7%]	[1.7%]	[+ 5.1pt]	[+ 0.9pt]	[5.1%]

※ '21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

#### 事業損益増減要因 (億円)



#### 補足情報

ボーイング向け航空機分担製造品の売上機数 (単位：機)

	'21年度		'22年度		1Q比増減
	1Q	通期	1Q		
767	8	34	8	-	
777	6	21	7	+ 1	
777X	1	4	0	▲ 1	
787	16	35	0	▲ 16	

主要航空エンジン分担製造品の売上台数 (単位：台)

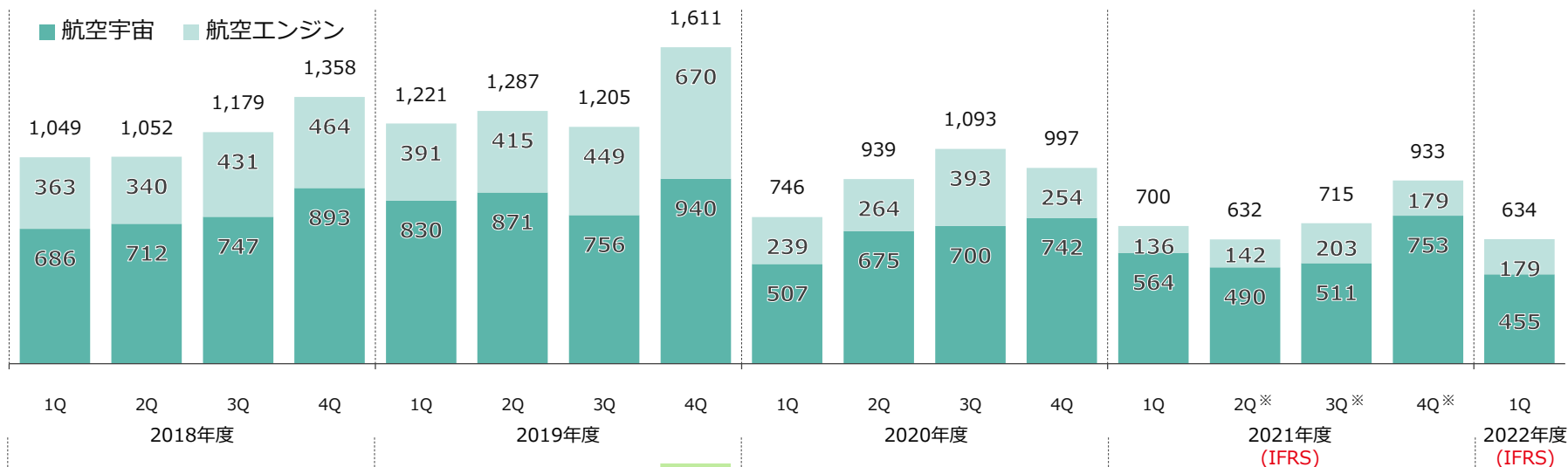
	'21年度		'22年度		1Q比増減
	1Q	通期	1Q		
V2500	2	16	5	+ 3	
PW1100G	107	437	129	+ 22	

(注) Rolls-Royce向けエンジンは非公表

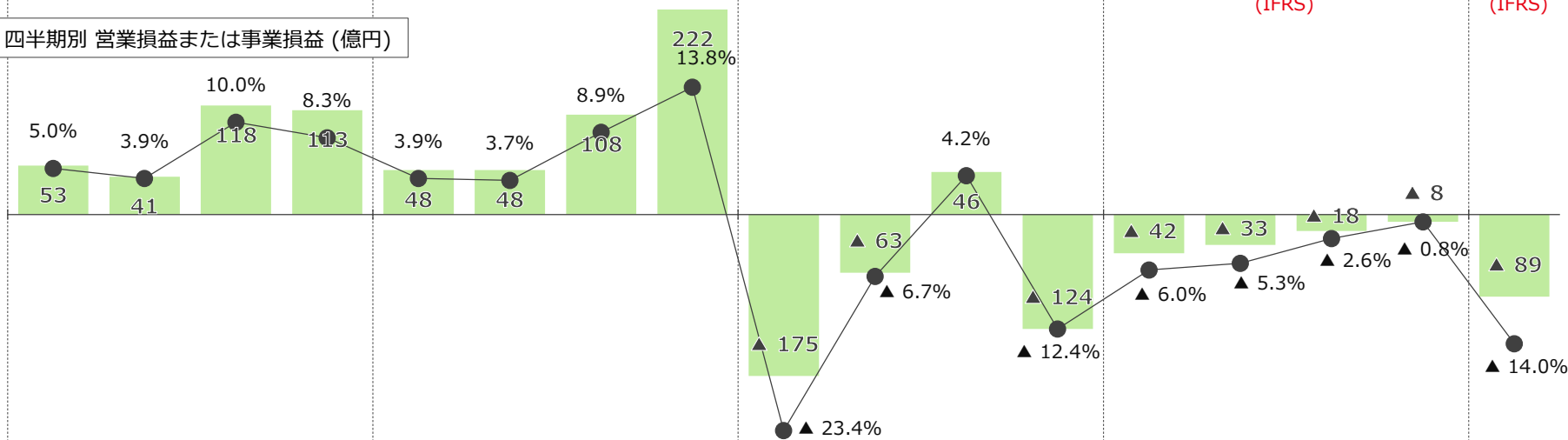


# 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



\* 本項グラフにおける2021年度2Q~4Qの数値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります。

# 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

## 事業環境・受注動向

- 民間向け
  - コロナの影響を強く受け、世界の旅客需要低迷に伴い機体・エンジンともに需要が低下している
  - 航空旅客需要は、アジア等では需要回復遅れが見られるものの、欧米をはじめ経済活動再開を優先する国々の増加に伴い回復基調
  - ただし、ウクライナ情勢の影響で、依然として先行き不透明な状況が継続している
  - 市場環境がコロナ以前の状況に回復するには相当程度の時間を要する
- 防衛省向け
  - 厳しい防衛予算の中でも概ね安定した需要が存在する
  - 中長期的にも安定した受注が見込める

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 基盤事業での安定した収益確保

- ボーイング既存機および民間航空機用エンジンの収益確保のためのコストダウン推進
- 防衛航空機・ヘリコプタの既受注開発案件・量産契約の着実な推進

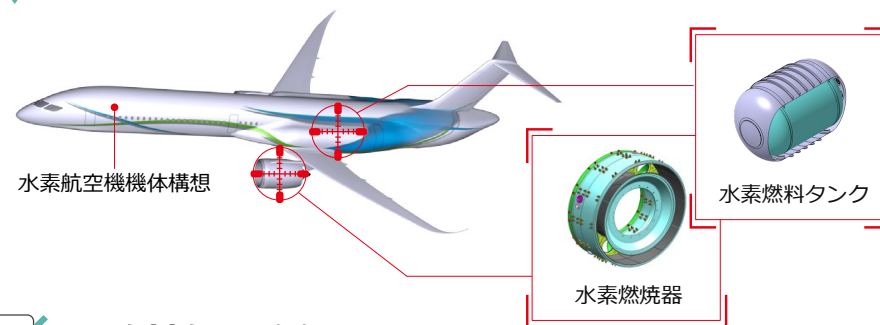


H145//BK117 D-3  
警察庁に2機納入

### ✓ 市場変化を踏まえた技術戦略の見直し

- 将来ビジョン実現に向けた技術開発の促進
- NEDOグリーンイノベーション基金を活用し脱炭素社会に向けた環境技術開発を推進

### ✈ 水素航空機向けコア技術開発






### ✓ 財務基盤の強化




- 固定費構造の見直し
- 生産革新活動による棚卸資産圧縮の促進

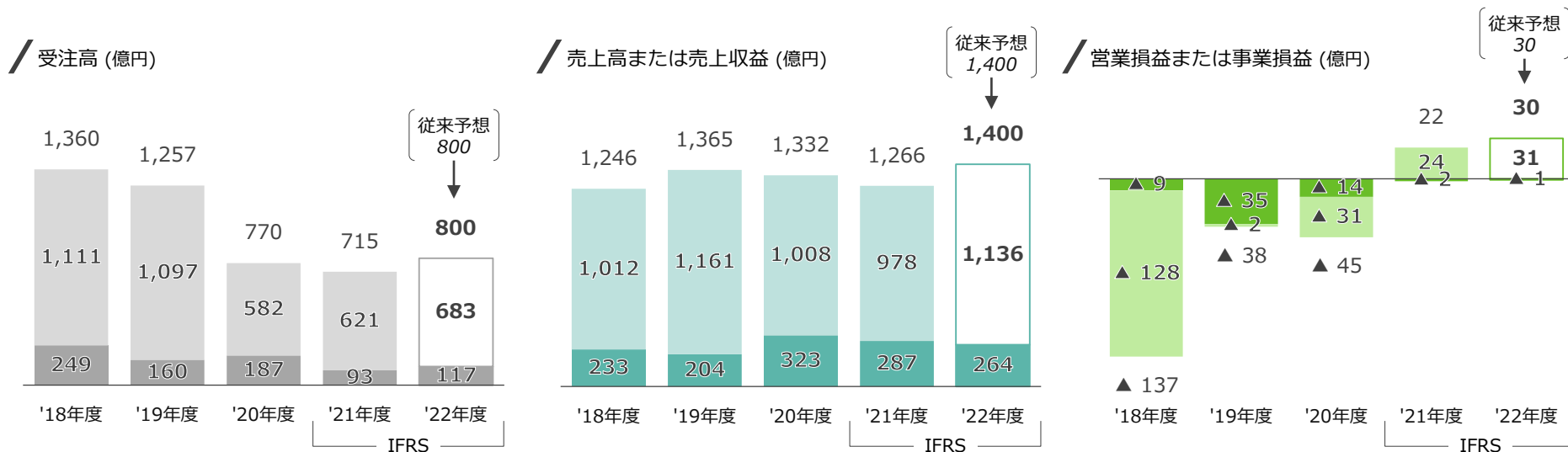
# 3 セグメント別詳細情報 - 車両

## 2022年度1Q実績（前年同期比）

- 受注高**  国内向け新型通勤電車などの大口案件を受注したことにより増加  
 +23 億円
- 売上収益**  米国向け車両が減少したことなどにより減収  
 ▲23 億円
- 事業利益**  減収はあったものの、前年同期並み  
 +0 億円

## 2022年度予想（従来予想比）

- 受注高**  大きな変動はなく、見通しを据え置き  
 ±0 億円
- 売上収益**  同 上  
 ±0 億円
- 事業利益**  同 上  
 ±0 億円



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します。なお、21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

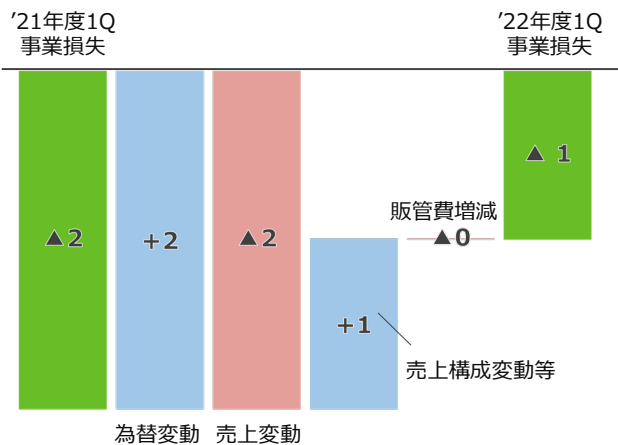
### 3 セグメント別詳細情報 - 車両

(単位：億円)

	'21年度	'22年度		'21年度	'22年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期*	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	93	<b>117</b>	+ 23	715	800	<b>800</b>	+ 85	-	<b>683</b>
うち 国内・アジア	61	<b>110</b>	+ 48	651	745	<b>745</b>	+ 94	-	<b>635</b>
北米	32	<b>7</b>	▲ 25	64	55	<b>55</b>	▲ 9	-	<b>48</b>
売上収益	287	<b>264</b>	▲ 23	1,266	1,400	<b>1,400</b>	+ 134	-	<b>1,136</b>
うち 国内・アジア	185	<b>184</b>	▲ 1	922	955	<b>955</b>	+ 33	-	<b>771</b>
北米	102	<b>80</b>	▲ 22	344	445	<b>445</b>	+ 101	-	<b>365</b>
事業損益	▲ 2	<b>▲ 1</b>	+ 0	22	30	<b>30</b>	+ 8	-	<b>31</b>
	[利益率] [▲ 0.7%]	[▲ 0.5%]	[+ 0.1pt]	[1.7%]	[2.1%]	[2.1%]	[+ 0.3pt]	[-]	[2.7%]

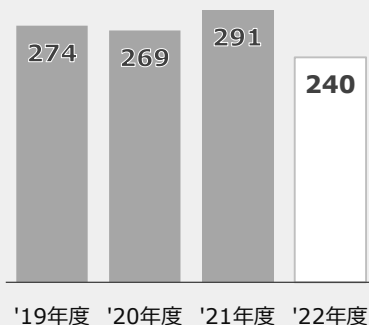
※ 21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

#### 事業損益増減要因 (億円)



#### 補足情報

部品・改造・アフター関連売上(単位：億円)

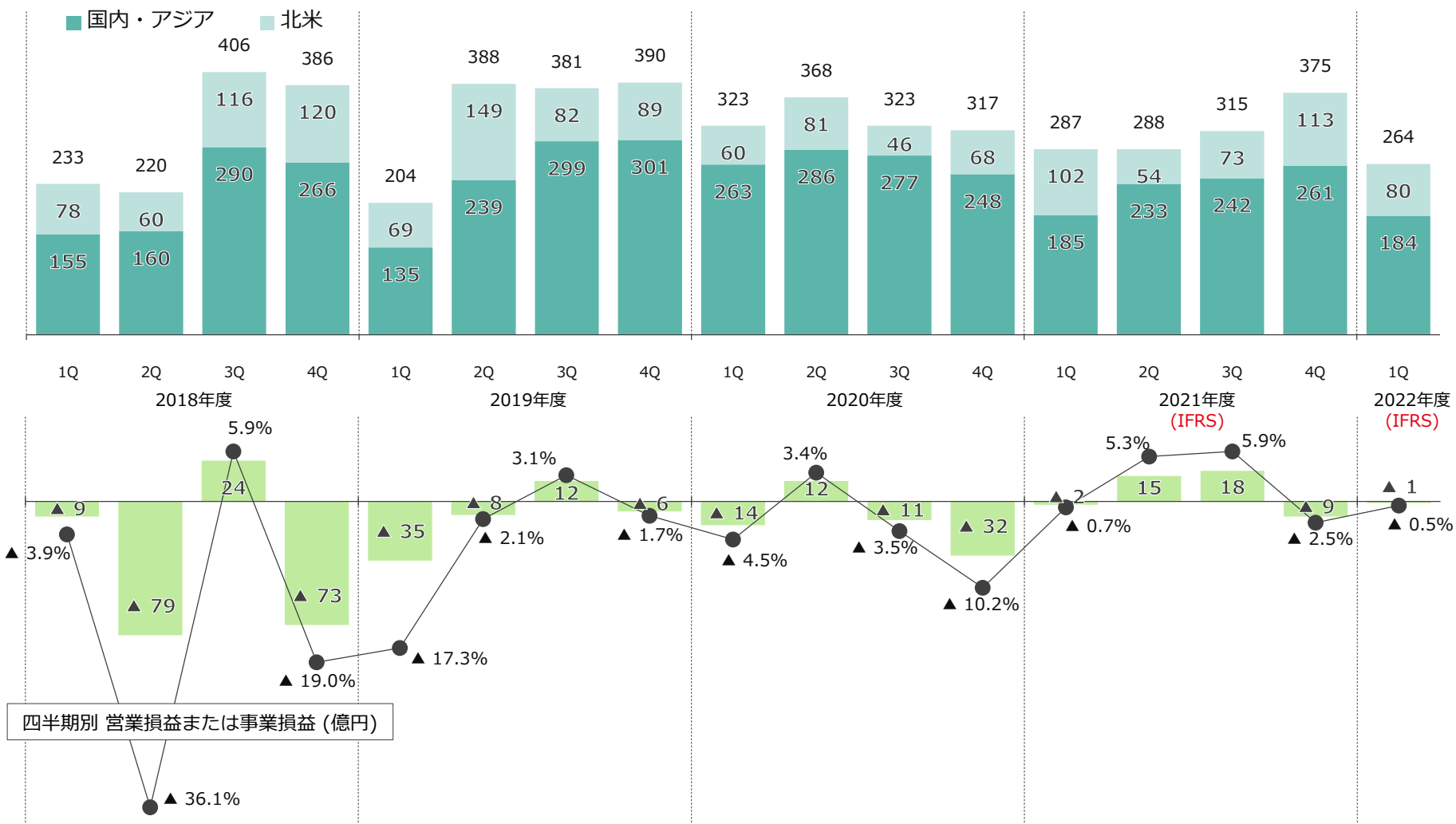


米国ロングアイランド鉄道向け M-9プロジェクトの進捗状況 ('22年6月末)

- 全202両のうち、134両が引渡し済み
- 北米生産拠点のKMMでは最終号機の生産に着手しており、最終号機の引き渡しは2022年度3Qを予定

# 3 セグメント別詳細情報 - 車両

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



※ 本項グラフにおける2021年度2Q~4Qの数値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります。

# 3 セグメント別詳細情報 - 車両

## 事業環境・受注動向

- 新型コロナウイルスの影響
  - 国内では鉄道関連投資計画の見直しが一部の事業者から出ている
  - 海外では工程遅延や新規案件の入札の延期等があったものの、感染者数の落ち着きに伴い、徐々に正常化している
- サプライチェーンリスク
  - 電子部品等の供給不足や物流混乱、原材料価格の高騰については注視が必要も、足元業績への影響は限定的
- 中長期展望
  - 人口集中による大都市の混雑緩和や環境対策のための都市交通整備、アジア諸国の経済発展に伴う鉄道インフラニーズなど、今後も世界的に比較的安定した成長が見込まれる

ダッカ都市交通会社  
(Dhaka Mass Transit  
Company Limited) 向け  
都市高速鉄道車両



## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 海外案件の納入スケジュール遵守

- 主要案件のマイルストーン

地域・案件名	ステータス	マイルストーン
ダッカ 6号線	▶ 初編成・第2編成は現地機能試験を実施中 ▶ 全24編成(144両)中、2022年3月末時点で12編成(72両)を出荷済	最終車両出荷 2022年度4Q
シンガポール T251	▶ 全91編成(364両)中、2022年3月末時点で75編成(300両)を納入済	最終車両納入 2022年度3Q
米国 R211	▶ R211Aパイロット車2編成(10両)はNYCTにて型式試験中 ▶ KMMでのR211A量産車生産は2021年度3Qから開始	プロト初編成引渡し 2022年度3Q
米国 M-9	▶ 2021年度1QにBase契約(92両)は完工しOption車両の生産中	最終車両引渡し 2022年度3Q

### ✓ 顧客に信頼される品質レベルの達成


- 仕損じ、手直し費用の削減
- KPS (Kawasaki Production System)の更なる推進、北米工場への展開


### ✓ 部品・サービスの拡販、保守分野の事業拡大


- 北米向け軌道遠隔監視装置の拡販
- 国内鉄道事業者向けへの車両状態監視装置の拡販

# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン


## 2022年度1Q実績（前年同期比）


**受注高**  LPG運搬船の受注増加や国内向けごみ処理施設整備・運営事業等の大口案件の受注などにより増加  
+636 億円


**売上収益**  LPG運搬船の工事量増加はあったものの、国内向けごみ処理施設案件の工事量減少などにより減収  
▲68 億円

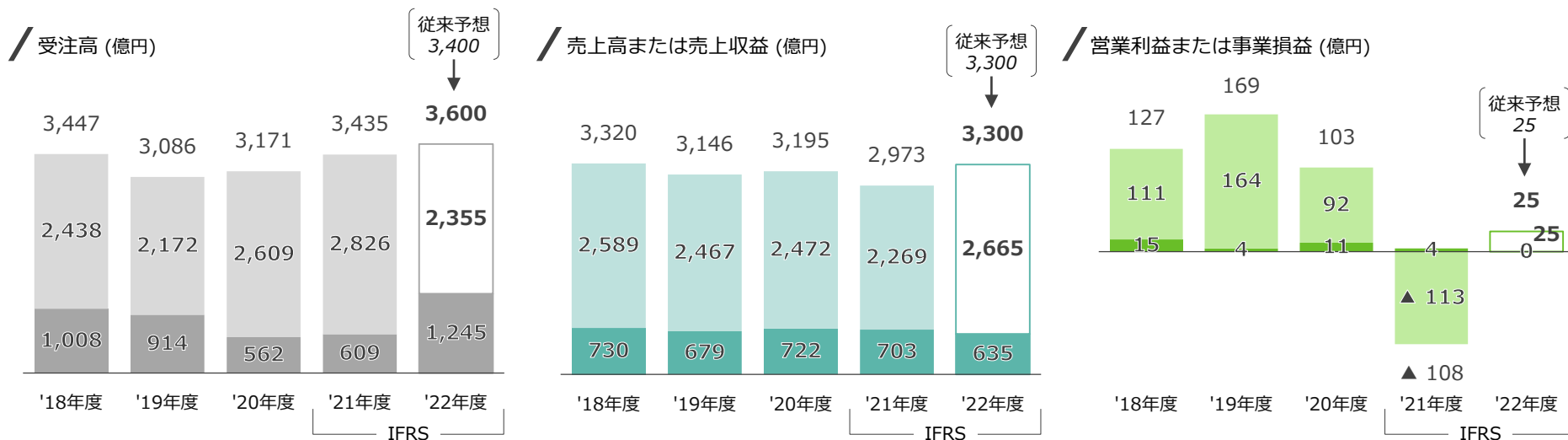
**事業利益**  持分法損益の改善はあったものの、国内向けごみ処理施設案件の工事量減少などにより悪化  
▲4 億円

## 2022年度予想（従来予想比）

**受注高**  プラント事業における国内向けごみ処理施設整備・運営事業等の増加などにより、見通しを引き上げ  
+200 億円

**売上収益**  大きな変動はなく、見通しを据え置き  
±0 億円

**事業利益**  為替前提の変更はあるものの、原材料価格の上昇等の影響により、全体としては見通しを据え置き  
±0 億円



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します。なお、21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

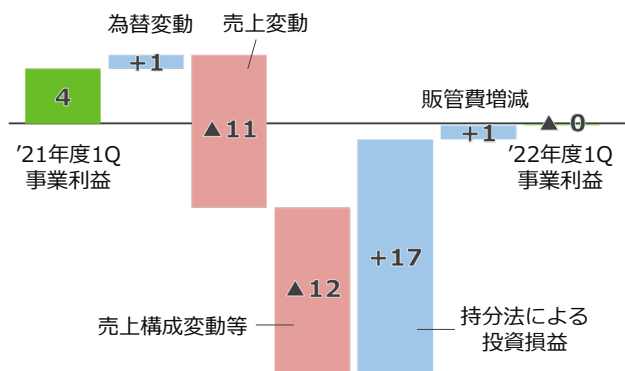
# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

(単位：億円)

	'21年度	'22年度		'21年度	'22年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期*	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	609	<b>1,245</b>	+ 636	3,435	3,400	<b>3,600</b>	+ 165	+ 200	<b>2,355</b>
うち I初機・プラント・船用推進	555	<b>943</b>	+ 388	2,727	2,500	<b>2,700</b>	▲ 27	+ 200	<b>1,757</b>
船舶海洋	53	<b>301</b>	+ 248	708	900	<b>900</b>	+ 192	-	<b>599</b>
売上収益	703	<b>635</b>	▲ 68	2,973	3,300	<b>3,300</b>	+ 327	-	<b>2,665</b>
うち I初機・プラント・船用推進	510	<b>436</b>	▲ 73	2,323	2,500	<b>2,500</b>	+ 177	-	<b>2,064</b>
船舶海洋	193	<b>198</b>	+ 5	649	800	<b>800</b>	+ 151	-	<b>602</b>
事業損益	4	<b>▲ 0</b>	▲ 4	▲ 108	25	<b>25</b>	+ 133	-	<b>25</b>
[利益率]	[0.6%]	[▲ 0.0%]	[▲ 0.6pt]	[▲ 3.6%]	[0.7%]	[0.7%]	[+ 4.3pt]	[-]	[0.9%]
うち 持分法投資損益	▲ 4	<b>12</b>	+ 17	▲ 112	15	<b>15</b>	+ 127	-	<b>3</b>

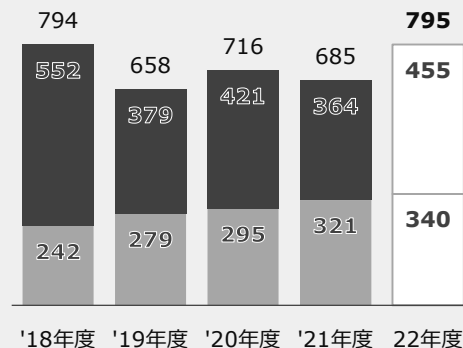
※ '21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

## 事業損益増減要因 (億円)

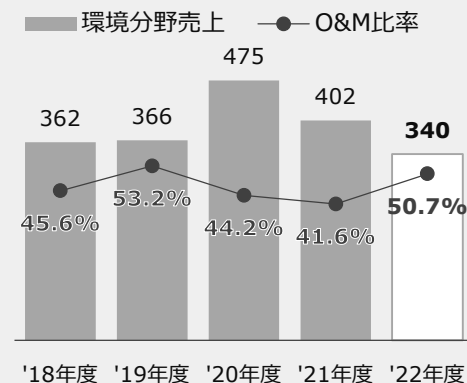


## 補足情報

エネルギー事業における主要製品の売上 (億円)  
(上段：機器関連 下段：アフターサービス)



プラント事業における環境分野の売上 (億円)



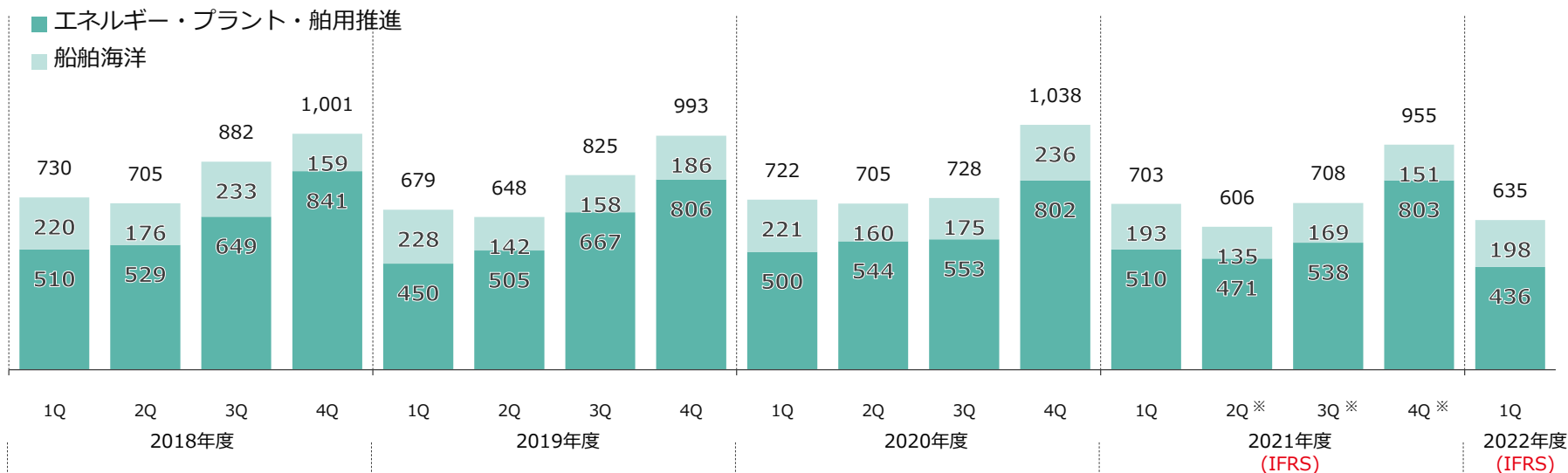


# 3

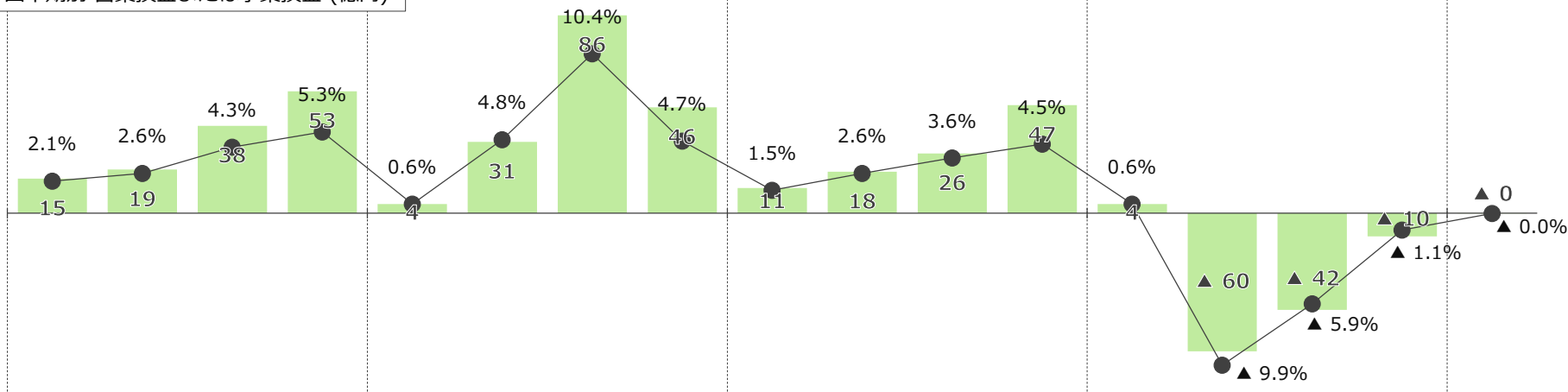
## セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

四半期別 売上高または売上収益 (億円)

(注) 過年度実績は変更後の報告セグメントに組替えて表示しています



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



\* 本項グラフにおける2021年度2Q~4Qの数値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります。

# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

## 事業環境・受注動向

### ● エネルギー・プラント・船用推進

国内	海外(新興国)
分散型電源需要が根強く、ごみ焼却設備の老朽化更新需要が継続	分散型電源等のエネルギーインフラ整備需要が根強い

### ● 船舶海洋

一般商船	艦艇・特殊船
- アンモニア需要増に対する期待の高まりを背景としたLPG/アンモニア運搬船に底堅い需要	- 潜水艦は安定的な受注

### ● セグメント全体

コロナ影響・リスク	カーボンニュートラル
- 需要は回復基調を維持 - 原材料価格や輸送運賃の高騰、部材入手難の影響による収益の圧迫を懸念	当社が強みとする水素製品をはじめ、脱炭素ソリューションに関する問い合わせや協力要請が増加

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 低炭素・脱炭素社会の実現に貢献する製品・サービスの提供

**事例** 世界初ピュアバッテリー電気推進タンカー「あさひ」向け「大容量バッテリー推進システム」を納入

- 大容量リチウムイオンバッテリー、アジマススラスト、推進制御装置、電力管理装置などで構成されるシステム動力・電力を主推進機や他機器へ効率的に供給可能
- 運航時におけるCO<sub>2</sub>、NOxなどの排出量を大幅に削減し環境負荷低減に貢献
- メンテナンス性が高く船員の労務負荷軽減に貢献



世界初のピュアバッテリー電気推進タンカー「あさひ」  
(提供：旭タンカー、e5ラボ)

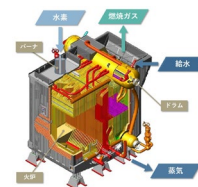
### ✓ 脱炭素分野での主導的ポジションの確立

- 水素エネルギー普及を見据えた技術開発の着実な遂行
  - ✓ 160,000m<sup>3</sup>型 液化水素運搬船の基本設計承認(AiP※)を一般財団法人日本海事協会より取得 ※Approval in Principle
  - ✓ パイロットチェーン実証船「すいそ ふろんていあ」が以下を受賞



シップオブザイヤー2021  
第51回日本産業技術大賞 内閣総理大臣賞  
第19回ステンレス協会賞 優秀賞

- ✓ 世界初 船用水素ボイラ(右図)の基本設計を完了



# 3 セグメント別詳細情報 - 精密機械・ロボット

## 2022年度1Q実績（前年同期比）

**受注高** ▲28 億円  
 中国建設機械市場向け油圧機器が減少したものの、為替相場が円安で推移したことや、半導体製造装置向けをはじめとする各種ロボットの増加により増加

**売上収益** ▲50 億円  
 為替相場が円安で推移したものの、中国建設機械市場向け油圧機器が減少したことにより減収

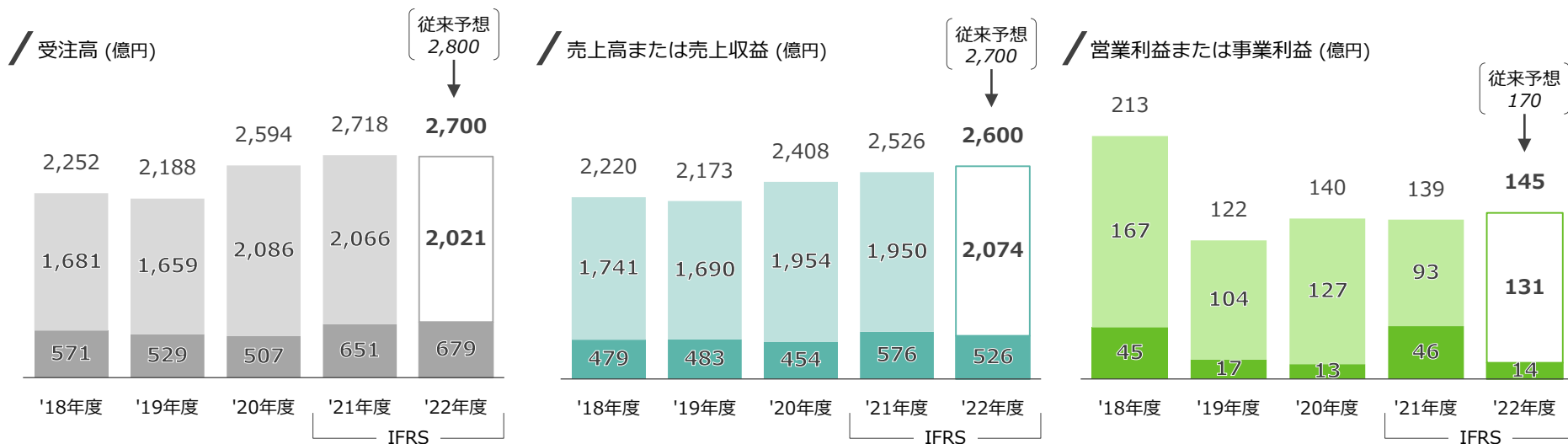
**事業利益** ▲31 億円  
 減収および中国ロックダウンによる操業の低下などにより減益

## 2022年度予想（従来予想比）

**受注高** ▲100 億円  
 為替前提の変更による各種ロボットの増加はあるものの、中国建設機械市場向け油圧機器の減少などにより、見通しを引き下げ

**売上収益** 同上  
 ▲100 億円

**事業利益** ▲25 億円  
 為替前提の変更はあるものの、減収により、見通しを引き下げ



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します。なお、21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

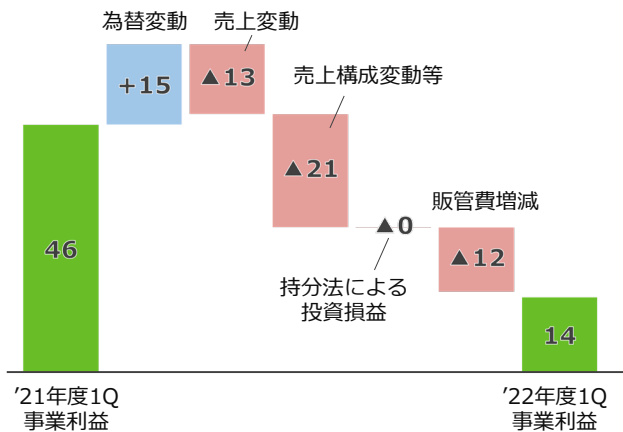
# 3 セグメント別詳細情報 - 精密機械・ロボット

(単位：億円)

	'21年度	'22年度		'21年度	'22年度予想					
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期*	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想	
受注高	651	<b>679</b>	+ 28	2,718	2,800	<b>2,700</b>	▲ 18	▲ 100	<b>2,021</b>	
うち 油圧機器	411	<b>376</b>	▲ 35	1,716	1,800	<b>1,600</b>	▲ 116	▲ 200	<b>1,224</b>	
ロボット	240	<b>303</b>	+ 63	1,001	1,000	<b>1,100</b>	+ 99	+ 100	<b>797</b>	
売上収益	576	<b>526</b>	▲ 50	2,526	2,700	<b>2,600</b>	+ 74	▲ 100	<b>2,074</b>	
うち 油圧機器	405	<b>321</b>	▲ 84	1,631	1,700	<b>1,550</b>	▲ 81	▲ 150	<b>1,229</b>	
ロボット	170	<b>204</b>	+ 33	895	1,000	<b>1,050</b>	+ 155	+ 50	<b>846</b>	
事業利益	46	<b>14</b>	▲ 31	139	170	<b>145</b>	+ 6	▲ 25	<b>131</b>	
[利益率]	[8.0%]	[2.8%]	[▲ 5.1pt]	[5.5%]	[6.2%]	[5.5%]	[+ 0.0pt]	[▲ 0.7pt]	[6.3%]	
うち 持分法投資損益	▲ 4	<b>▲ 5</b>	▲ 0	▲ 25	▲ 25	<b>▲ 25</b>	-	-	<b>▲ 20</b>	

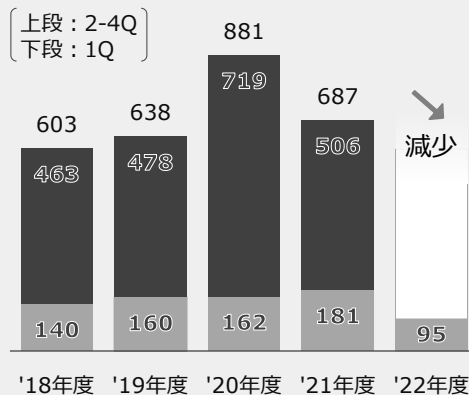
※ 21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

## 事業利益増減要因 (億円)



## 補足情報

### 中国向け油圧機器売上 (億円)



### ロボット分野別売上\* (単位：億円)

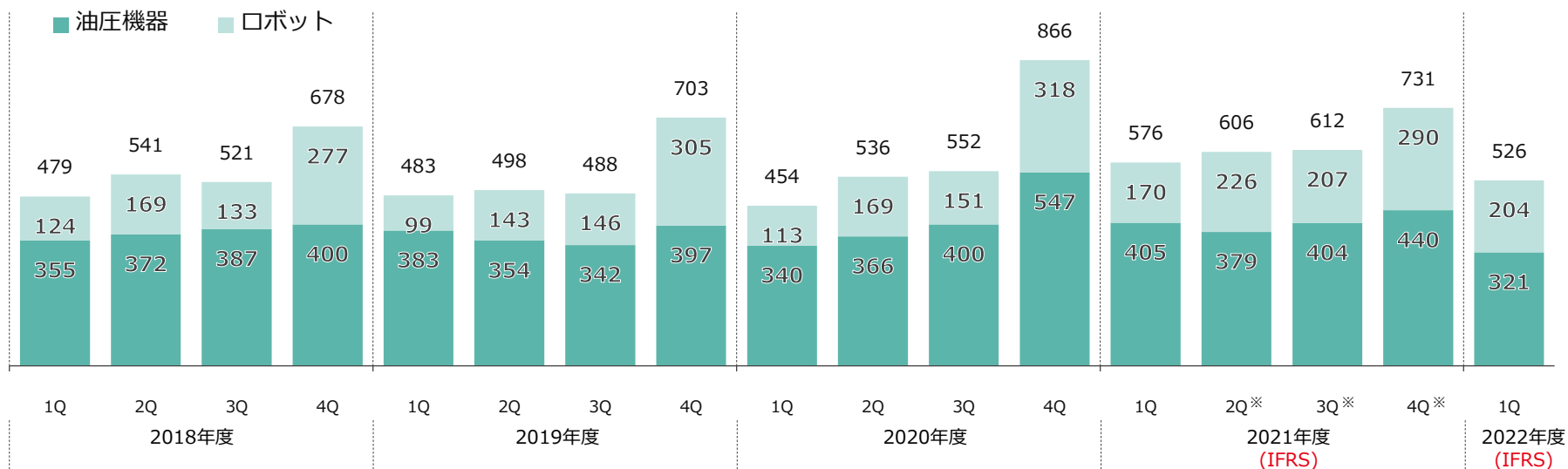
	'21年度	'22年度	増減
車体組立・塗装	62	57	▲ 4
半導体	357	(予) 375	+ 7
一般産機・その他	76	100	+ 24
	363	(予) 390	+ 27
合計	194	226	+ 32
	1,011	(予) 1,125	+ 114

※ 本表数値はセグメント間売上を含む

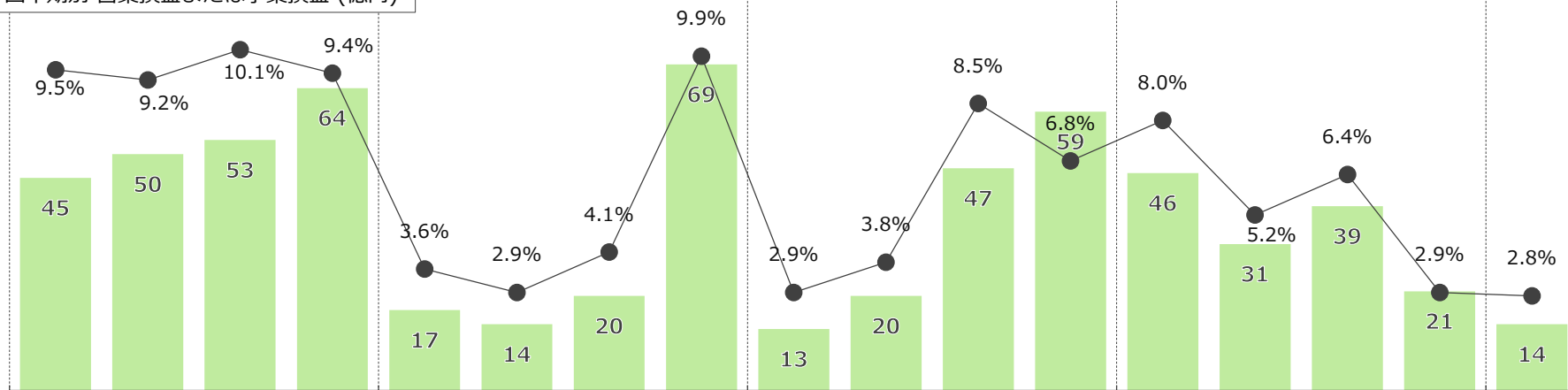
# 3

## セグメント別詳細情報 - 精密機械・ロボット

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



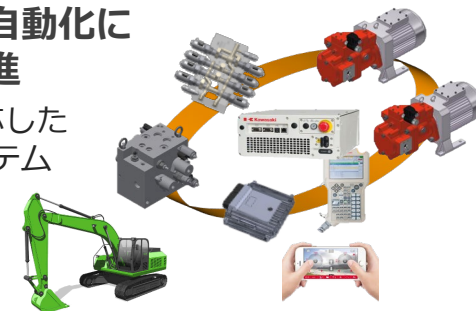
\* 本項グラフにおける2021年度2Q~4Qの数値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります。

## 事業環境・受注動向

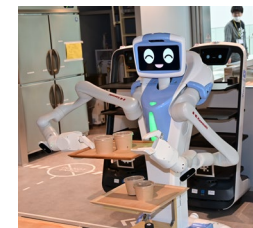
- 油圧機器
  - 中国建設機械市場  
ゼロコロナ政策に伴うロックダウン等の影響により需要が低迷
  - 中国以外の地域における建設機械市場  
コロナ影響による減少から回復し堅調に推移
  - 建設機械の分野は今後、環境規制を背景とした電動化と、建設現場の熟練労働者不足に起因する自動化・自律化が進む
- ロボット
  - 汎用ロボット  
自動化投資の強い需要があるものの、電子部品等の供給不足や物流混乱、中国でのロックダウン等、サプライチェーンの課題により供給が制約される状況が継続
  - 半導体向けロボット  
半導体製造装置メーカーの高水準の設備投資が継続するなかで好調に推移

## 重点施策と具体的な取り組み

- ✓ 建設機械の電動化・自動化に向けた技術開発の推進
  - 電動化・自動化に対応した最新型油圧機器・システムの開発・供給により、顧客の将来建機の開発をサポート
- ✓ 脱炭素社会の実現に向け水素関連製品の開発推進
  - 燃料電池車用高圧水素ガスバルブ・水素供給システム・油圧式水素圧縮機の開発
- ✓ オープンイノベーションの推進
  - 自律走行型双腕ロボット「Nyokkey」を **サービス業界向けのプラットフォーム※**として開発




オープンイノベーション施設「Future Lab HANEDA」内にある実証実験の場「レストラン AI\_SCAPE」で配膳しています。是非お越しく下さい。



レストランで配膳する「Nyokkey」

## 2022年度1Q実績（前年同期比）

売上収益   
+125 億円

製品供給不足による北米向け四輪車や欧州向け二輪車の減少等があったものの、北米向け及び東南アジア向け二輪車が増加したことに加え、為替レートが円安に推移したことなどにより増収

事業利益   
▲20 億円

増収に加え、前年同期に比べ為替レートが円安で推移したものの、原材料価格の上昇や物流費および固定費の増加などにより減益

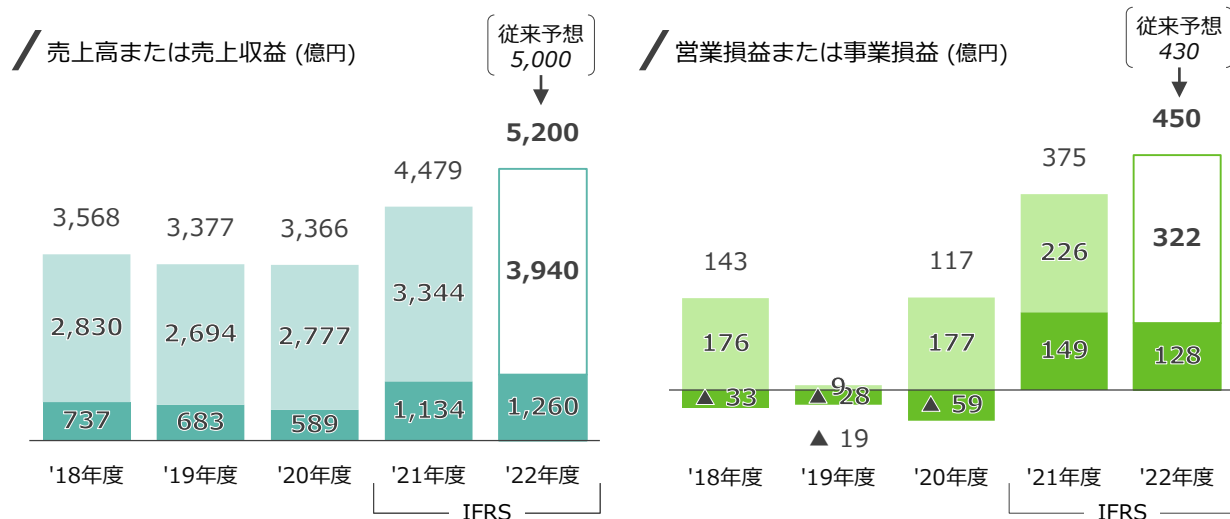
## 2022年度予想（従来予想比）

売上収益   
+200 億円

為替前提の変更に加え、コスト増に応じた販売価格の変更や北米向け二輪車の増加などにより、見通しを引き上げ

事業利益   
+20 億円

原材料価格や物流費の上昇はあるものの、増収などにより、見通しを引き上げ



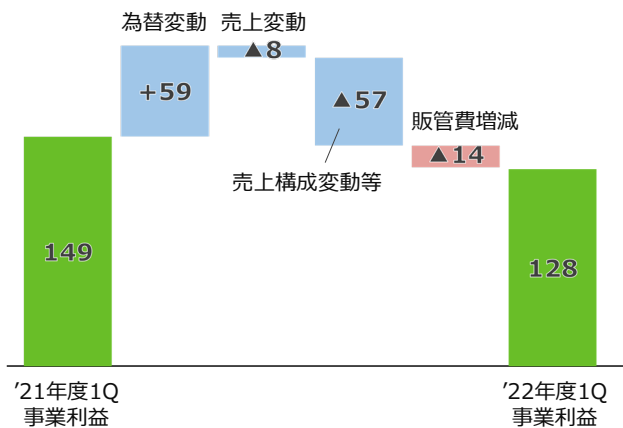
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します。なお、21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

(単位：億円)

	'21年度	'22年度		'21年度	'22年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期*	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
売上収益	1,134	<b>1,260</b>	+ 125	4,479	5,000	<b>5,200</b>	+ 721	+ 200	<b>3,940</b>
うち 先進国二輪車	466	<b>461</b>	▲ 4	1,699	1,720	<b>1,880</b>	+ 181	+ 160	<b>1,419</b>
新興国二輪車	219	<b>255</b>	+ 35	1,008	980	<b>1,000</b>	▲ 8	+ 20	<b>745</b>
四輪車・PWC	260	<b>314</b>	+ 53	1,088	1,400	<b>1,490</b>	+ 402	+ 90	<b>1,176</b>
汎用エンジン	188	<b>228</b>	+ 40	682	900	<b>830</b>	+ 148	▲ 70	<b>602</b>
事業利益	149	<b>128</b>	▲ 20	375	430	<b>450</b>	+ 75	+ 20	<b>322</b>
	[利益率] [13.1%]	[10.2%]	[▲ 2.9pt]	[8.3%]	[8.6%]	[8.6%]	[+ 0.2pt]	[ - ]	[8.1%]

※ '21年度通期実績値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります

### 事業利益増減要因 (億円)



### 補足情報

#### 二輪車国別販売台数 (卸売)

先進国 (単位：千台)

	'21年度1Q	'22年度1Q	増減
日本	6	8	+ 1
米国	20	23	+ 3
カナダ	2	3	+ 0
欧州	21	11	▲ 10
豪州	3	2	▲ 0
先進国計	55	49	▲ 5

新興国 (単位：千台)

	'21年度1Q	'22年度1Q	増減
ブラジル	2	2	+ 0
タイ	2	1	▲ 0
フィリピン	31	46	+ 14
インドネシア	11	11	▲ 0
中国	9	6	▲ 3
その他	4	3	▲ 0
新興国計	61	72	+ 11

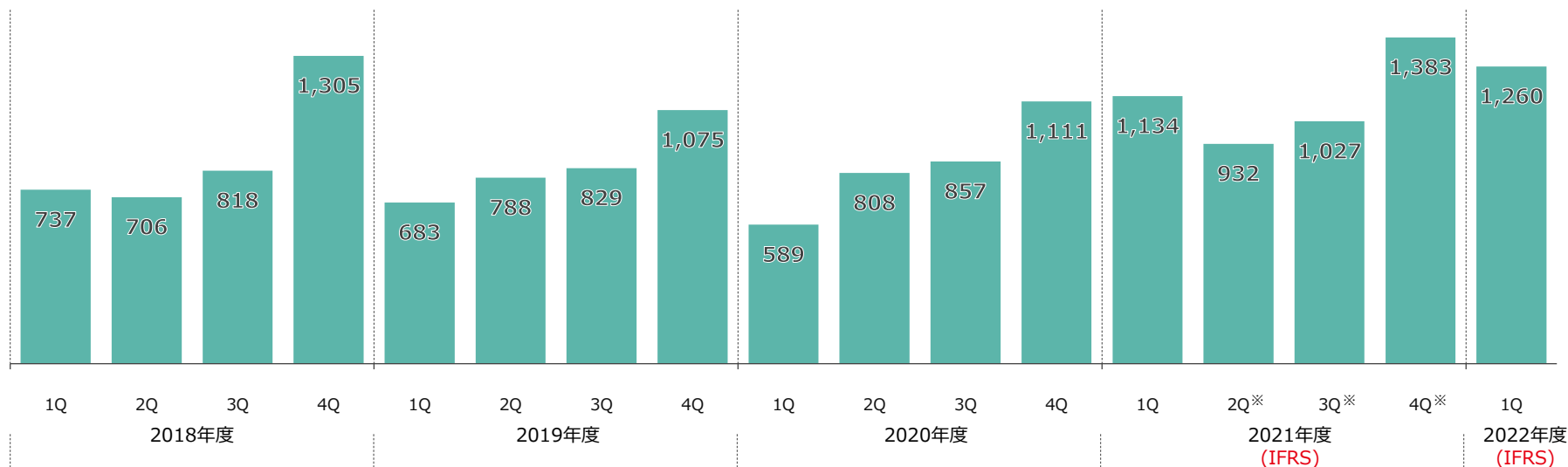
四輪車・PWCの販売台数 (卸売) は、'21年度1Qは17千台、'22年度1Qは16千台



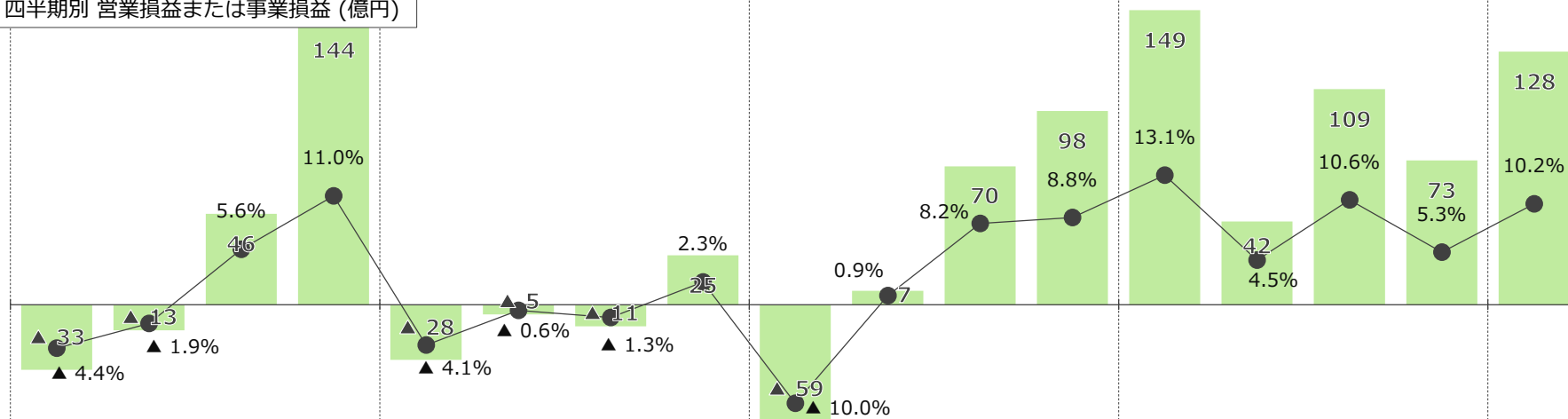
# 3

## セグメント別詳細情報 - モーターサイクル&エンジン

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



※ 本項グラフにおける2021年度2Q~4Qの数値はIFRSで算出していますが、監査未了の暫定値を掲載しているため、数値は今後変更となる可能性があります。

## 事業環境・受注動向

- 米国
  - 前年度に引き続き、二輪車・四輪車オフロードモデルの需要が旺盛
  - 今後も需要は堅調に推移すると見込む
- 欧州
  - コロナ影響が薄れ、市場は堅調に推移
- 東南アジア
  - 前年度から回復傾向にあるものの、依然として先行きが不透明な状況が継続
- サプライチェーン
  - 半導体や原材料の不足、物流の混乱等により、製品供給にも影響が及んでいる

## 重点施策と具体的な取り組み

- 市場要求に最大限に応える製品供給**
  - 生産計画達成に向け総力を挙げた活動
  - 半導体不足等を背景とするサプライヤーの供給不足や物流混乱により計画通り生産が出来ない場合、入手可能部品に応じて生産・販売計画の変更を迅速に実施
- 四輪ビジネスの拡大、脱炭素・電動化対応**
  - 製品競争力強化に向けた開発投資
  - 米国工場の能力増強、メキシコ新工場の稼働開始へ準備を継続
  - 電動、ハイブリッドモデルの上市に向けた開発を推進
  - トヨタ、DENSO及び二輪四社による水素エンジンの共同研究を開始
- 固定費コントロールの徹底（経営のスリム化）**
  - 具体的施策に裏付けられた固定費の抑制
  - 研究開発は強化
- FCFの確保**
  - 将来の投資に向けてFCFの安定確保を目指す



米国で販売好調なSxS  
TERYX KRX 1000



EV Project 参考出品車  
(2019年EICMAショー)

# 4 株主還元

## 配当政策

中長期的な  
連結配当性向の基準 **30%**

考慮

1 総合的に勘案

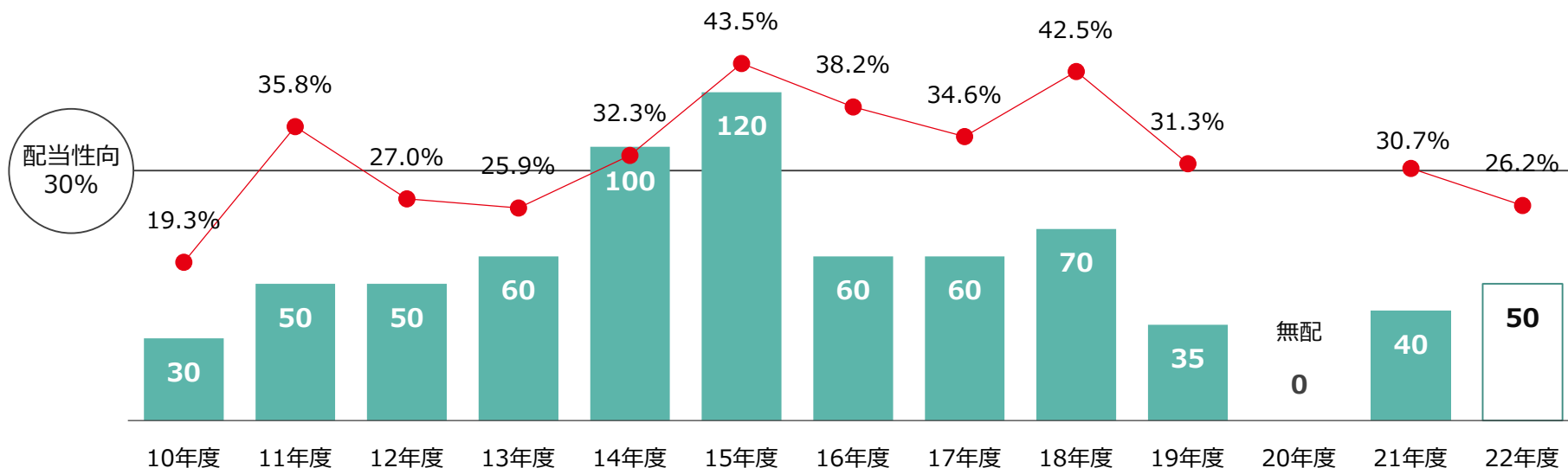
2 安定的な配当

将来の業績見通し  
FCFやD/Eレシオ等の  
財務状況

## 2022年度配当

- 円安の追い風もあり、親会社の所有者に帰属する当期利益は期初予想から30億円の上方修正
- 一方で、社会情勢不安や原材料・エネルギー価格および物流費の上昇などが継続しており、今後の急激な為替変動も懸念される

▶ 1株当たり年間配当 **50円** (配当性向26.2%)  
を据え置くが、中間配当は30円を予定

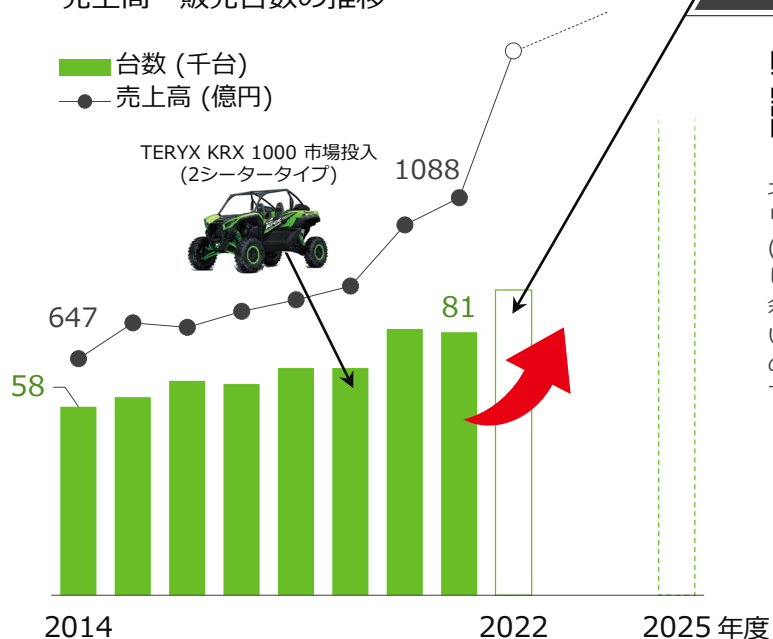


# 4 プロジェクトトピックス

## ✓ スポーツ用オフロード向け四輪車市場に 4シータータイプモデル「TERYX KRX4 1000」を発売

- 北米では主にアウトドアのレクリエーションを目的としたオフロード向け四輪車の需要が拡大中
- 家族や友人と一緒に楽しめるスポーツ用4人乗りモデルをラインナップすることで、今後も成長が期待される北米市場の事業基盤を強化

オフロード四輪車およびPWC  
売上高・販売台数の推移



TERYX KRX4 1000 市場投入

QRコード  
当社プレスリリースのURL  
[https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220608\\_2.html](https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220608_2.html)

北米のオフロード四輪車市場はリーマンショック前の水準(100万台/年)にはまだ到達しておらず、市場拡大の余地は十分に残されている中で、カワサキの存在感を発揮していく。



## 4 プロジェクトトピックス

### ✓ カーボンニュートラルの実現に向け、 カワサキ初の電動キッズバイク 「Elektrode」を米国で発売

- 「Elektrode」は2022年に発表を予定している電動モーターサイクル3機種のうち、記念すべき第1号オフロードモデル
- これまでラインナップしていなかった3才～8才頃の子どものための**“First Kawasaki”**であり、幅広い世代がそれぞれ楽しめるライフスタイルを提供

#### 今後の予定

- 2022年に更に2機種の電動モーターサイクルを発表予定
- 2025年までに10機種以上（BEV/HEV）を上市予定
- 2035年までに先進国向け主要機種の電動化（BEV/HEV）を完了予定



当社プレスリリースのURL

[https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220608\\_1.html](https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220608_1.html)



# 4 プロジェクトトピックス

## ✓ サービスロボットが続々と実証フェーズに ～ ロボットと一緒に生活する暮らしへ～

4月20日(水)  
ロボットの実証施設  
である「Future Lab  
HANEDA」を開設し  
ました

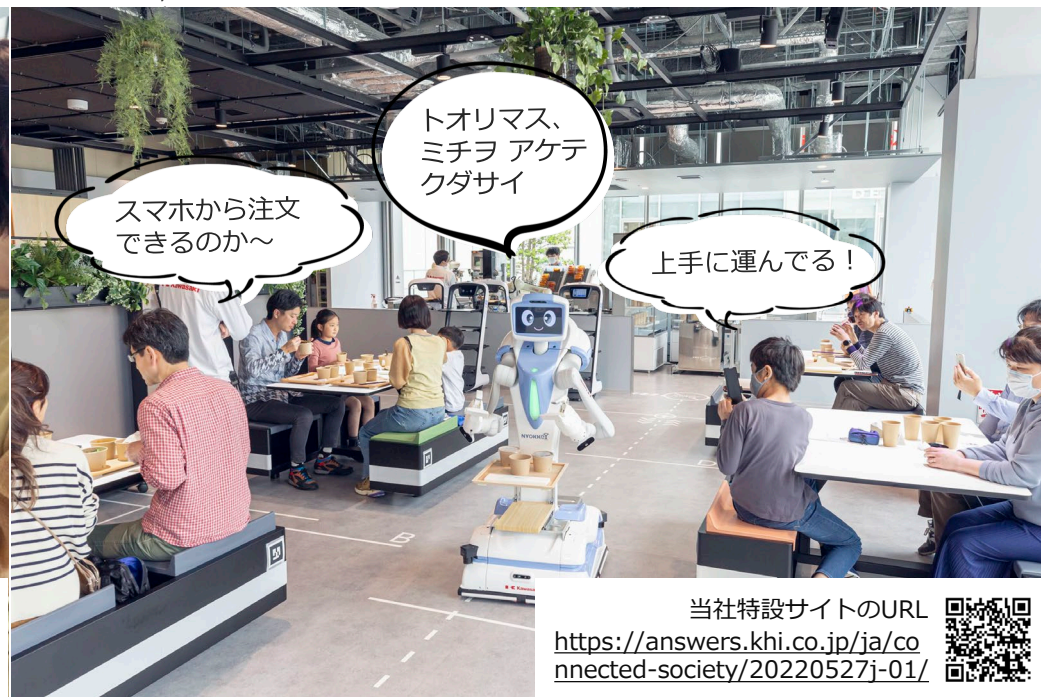
- 一般の方も来場可能なロボット  
レストラン「AI\_SCAPE」では、  
人とロボットの共存の在り方を提案
- スタートアップやアカデミア、  
マスコミから大きな注目を集める

4月22日(金)  
小池東京都知事が  
自動配送ロボットの  
走行する様子を視察  
しました

QRコードをかざして  
自動配送ロボットの解錠  
を体験する小池都知事



レストラン「AI\_SCAPE」のURL  
<https://ai-scape.jp/>

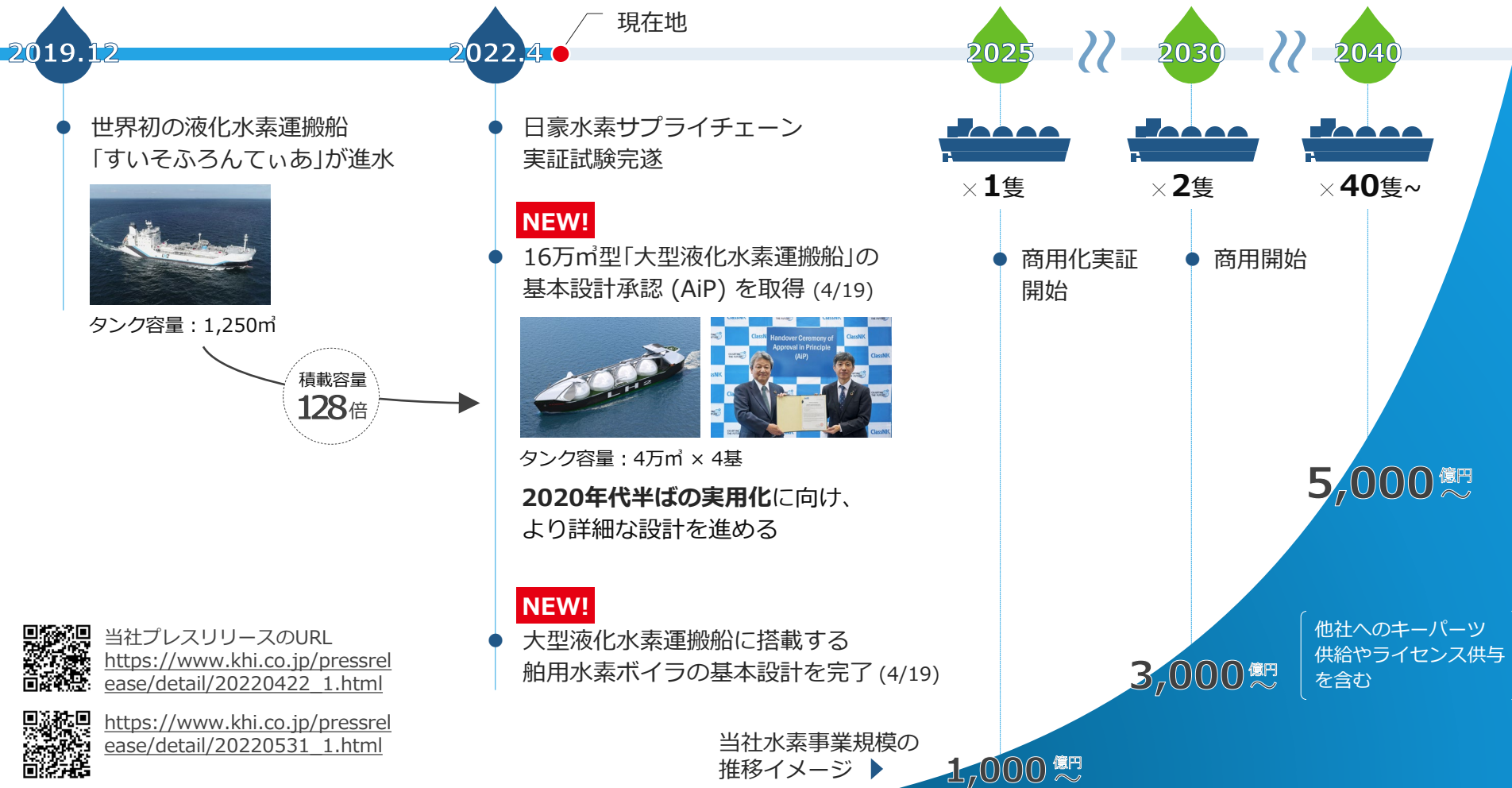


当社特設サイトのURL  
<https://answers.khi.co.jp/ja/co-nnected-society/20220527j-01/>

# 4 プロジェクトトピックス

2050  
2兆円  
~  
×80隻~

## ✓ 水素社会はすぐそこに ~ 「大型液化水素運搬船」 の設計が進む ~

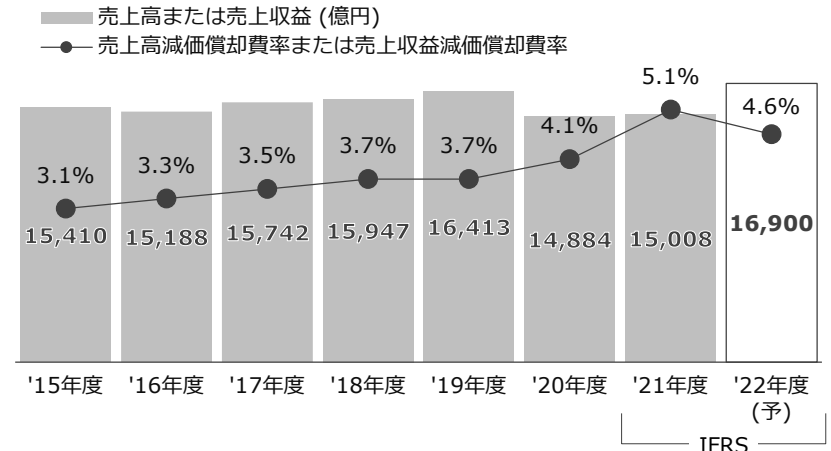
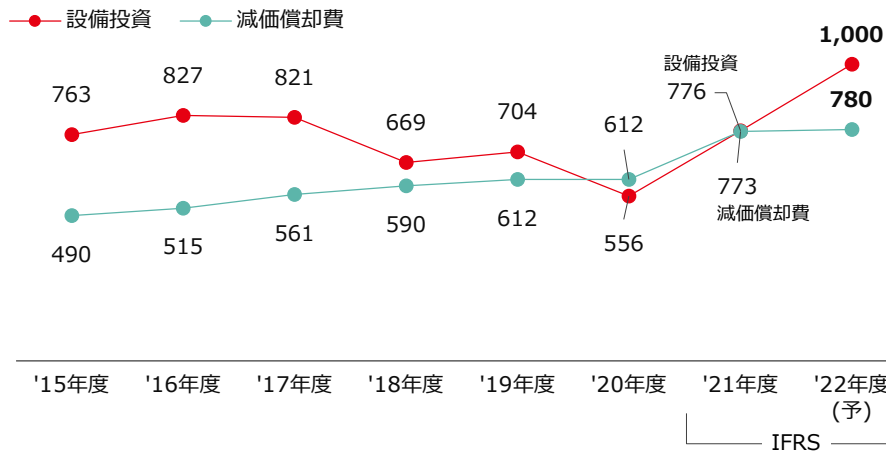


当社プレスリリースのURL  
[https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220422\\_1.html](https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220422_1.html)

[https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220531\\_1.html](https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20220531_1.html)

(単位：億円、名)

	'21年度	'22年度		'21年度	'22年度	
	1Q実績	1Q実績	前年同期比		通期	予想
設備投資	163	<b>226</b>	+ 63	776	<b>1,000</b>	+ 224
減価償却費	186	<b>189</b>	+ 2	773	<b>780</b>	+ 7
研究開発費	87	<b>107</b>	+ 20	457	<b>515</b>	+ 58
従業員数(期末)				36,587	<b>38,300</b>	+ 1,713
うち国内				26,596	<b>27,400</b>	+ 804
うち海外				9,991	<b>10,900</b>	+ 909



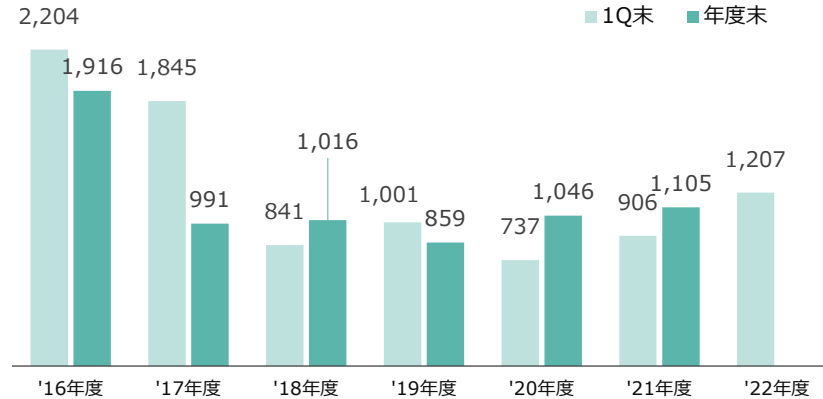


# 4 参考情報 - その他

## ● 受注残高 (億円)

	'21年度1Q	'22年度1Q	
	実績	実績	増減
航空宇宙システム	4,968	<b>6,168</b>	+ 1,200
車両	4,238	<b>3,734</b>	▲ 503
工機・ソリューション&マリソ	4,649	<b>5,681</b>	+ 1,032
精密機械・ロボット	767	<b>1,038</b>	+ 270
モーターサイクル&エンジン	-	-	-
その他	243	<b>307</b>	+ 63
合計	14,868	<b>16,930</b>	+ 2,062

## ● 船舶海洋 受注残高の推移 (億円)



## ● 地域別売上収益 (億円)

	'21年度1Q	'22年度1Q	
	実績	実績	増減
日本	1,452	<b>1,394</b>	▲ 57
米国	909	<b>967</b>	+ 57
欧州	356	<b>306</b>	▲ 50
アジア	671	<b>569</b>	▲ 102
その他	165	<b>265</b>	+ 99
合計	3,555	<b>3,503</b>	▲ 52

※ 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています

## ● 船種別受注実績および完工年度 (隻)

	受注 '22年度1Q 実績	完工年度				受注残
		'22年度1Q 実績	'22年度2Q~	'23年度	'24年度	
			予定			
LPG運搬船	2	1	3	4	3	10
潜水艦			1		1	2
その他						
合計	※ 2	※ 1	4	4	4	※ 12

※ '22年度1Q受注隻数の総トン数：100,800GT  
 '22年度1Q完工隻数の総トン数：50,700GT  
 受注残隻数の総トン数：504,900GT (潜水艦の排水トン数はGTに含まない)

# 4 参考情報 - その他

## ● セグメント別損益影響外貨量 (億USD)

	'21年度	'22年度	
	1Q実績	1Q実績	2-4Q予想
航空宇宙システム	1.6	<b>1.1</b>	7.7
車両	0.4	<b>0.1</b>	0.2
IT・ネットワーク&マシン	0.2	<b>0.7</b>	2.1
精密機械・ホット	0.8	<b>0.6</b>	1.5
モーターサイクル&エンジン	1.2	<b>1.6</b>	5.4
合計	4.2	<b>4.1</b>	16.9

※ 為替レートが1円変動することによる事業利益への概算影響額

## ● 売上加重平均レート (EUR/JPY)

'20年度実績	124.61
'21年度実績	130.47
'22年度1Q実績	136.88
'22年度2-4Q予想	130.00

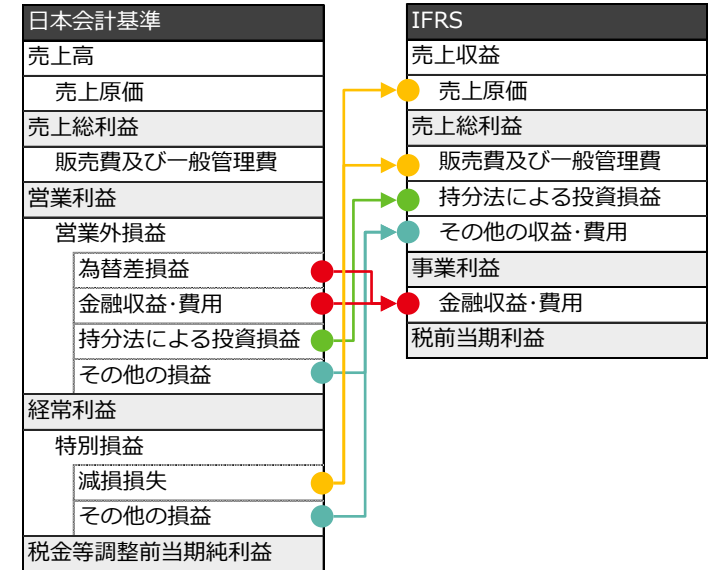
## ● 損益影響外貨量 (億EUR)

'20年度実績	3.2
'21年度実績	4.4
'22年度1Q実績	1.1
'22年度2-4Q予想	4.8

※ 為替レートが1円変動することによる事業利益への概算影響額

(ご参考)

IFRS適用に伴う損益計算書上の主要な変化点



世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する  
“Global Kawasaki”